


## ボランティアで世界はかわる! ?

A  
01

実践場所	愛知県	名古屋市青少年交流プラザ	実践者	秋田 有加里
対象	中学3年生～青年26歳(15名)	時間数	2時間	
所属	愛知淑徳大学CCCスタッフ	実践教科	—	
ねらい	①世界の現状を知る。②みんなが幸せに生きるためには何が必要かを確認する。 ③みんなの幸せにつながるには自分に何ができるか考える。			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1 (1時間)	<p><b>みんな(地域、世界)にとって幸せに生きるために大切なコト♪</b></p> <p>①アイスブレイキング(私はこんな人!あなたはどんな人!)</p> <p>②世界の現状(世界がもし100人の村だったら) みんなで映像をみながら、世界の状況と自分達の生活を知ってもらおう。</p> <p>③世界と自分をつなぐもの (Q:この部屋の中では?今日、起きてから、ここにくるまででは?) みんなに世界とつながっているものを言ってもらいホワイトボードに書きだす。</p> <p>④私の生活を支えるもの、私の生活で大切なもの ポストイットに記述。順番にエピソード話を添えながら、模造紙にはっていく。</p> <p>⑤子ども達にとって必要なもの グループごとに写真を見てもらい、子ども達が幸せに生きるために必要だと思うものをどんどん書き出す。→各チーム伝え合う。</p> <p>⑥今日の確認 自分にとって必要なもの、大切におもっていることが何であるかを 知り、みんなにとって幸せに生きるためには何が必要かを確認する。</p>	<p>映像(You Tube)</p>     <p>ハートカードに記入してもらい、みんなで大きな花にする</p>	
2 (1時間)	<p><b>わたしにできることっ! ~これからのわたし~</b></p> <p>①アイスブレイキング(この2週間のわたしを1文字で表す)</p> <p>②第1回の内容確認</p> <p>③(違いを不利にしないで)多様な人々が共に生きることに 社会に必要なコト ポストイットに記述。順番に考えを言いながら模造紙にはっていく。</p> <p>④(③の世界を創るために)私ができること 明日からの自分をポストイットに書き出し、順番に宣言しながら、 模造紙にはっていく。</p> <p>⑤私のこれまでとこれから 自分達が今まで行ってきたボランティア活動をふまえて 明日からの目標を立ててカードに書き出す。</p>			
成果	中学3年生から青年というメンバーではあるが、ボランティア活動を行っているので、短い時間にたくさんの投げかけに答えてくれました。普段身近な活動を行っている子達が世界に目を向けるきっかけになったと思います。また、世界をかえようと思う気持ちは、身近な人への自主的な働きかけ、協力が必要だと気づいてくれたと思います。			
課題	時間が大変短いため、全員にねらいを十分伝えられたのか。もっと時間をとって行うことができると良かったです。			
備考	中学生の言葉に大学生がハッとする場面もあり、このようなプログラムの時間をみんなが共有できたことは良かったと思いました。			

タイトル

## 誰かのために頑張るってワイルドだろお？

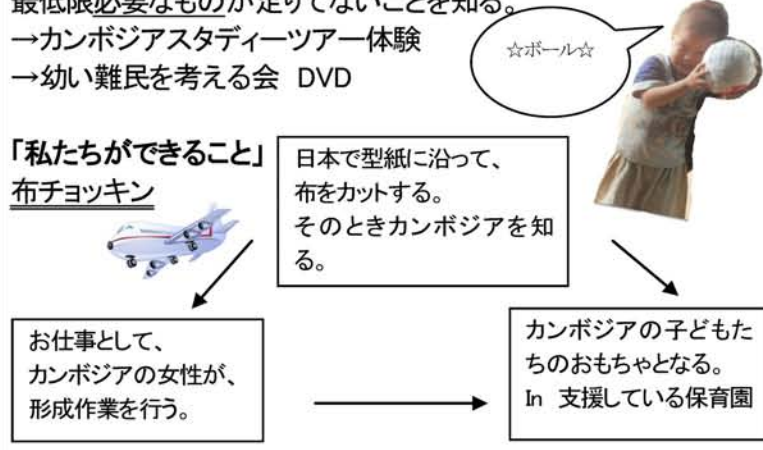





A  
02

実践場所	愛知県	名古屋市立当知中学校	実践者	伊藤雄司
対象	中学校1年生(158名)		時間数	14時間
担当教科	英語		実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チョコレートをきっかけに、ガーナが自分とつながっていることを知る。</li> <li>・ガーナの状態を知り、ガーナで頑張る日本人について知る。</li> <li>・国際協力活動を知り、今の自分の生活を振り返り、これからの自分の行動を考える。</li> </ul>			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	<b>○「わたし」「あなた」をもっと知りたい！！</b> 自分を表す漢字で自己紹介 グループで同じ人・共通項探し／グループで違う人・共通項探し 自分のクラスのいいところ探し <ギャラリー方式> これをすると、いい学年になるなあ！という約束		アクティビティシート3枚
	1	<b>○「アフリカ」「ガーナ」って？(教室) &lt;ブレインストーミング&gt;</b> アフリカに対するイメージを付せんに書かせ、それをB紙に貼っていく。その後、DVDを視聴させて感想を書かせる。		B紙・付せん DVD「スマイルアフリカ」
	1	<b>○ガーナ・カカオ豆・チョコレートの秘密(武道場)</b> クイズ形式でガーナについて学んでいく。世界が自分とつながっていることを知る。感想とガーナで見て来たいものを書く。		パワーポイント資料
	1	<b>○「教科書には載ってないガーナ！」報告会(体育館)</b> プロジェクターを使い、ガーナでの見たこと・感じたことなどを報告。ガーナの状態を知り、ガーナで頑張っている日本人がたくさんいることを知る。今の自分の生活を振り返る。		パワーポイント資料
	1	<b>○「ガーナに賭けた青春」(武道場)</b> 読んだ後に感想を書く。国際協力活動(青年海外協力隊)を知る。 <KJ法>「もしも私がアチュア村の村長になったら」		資料「ガーナに賭けた青春」 学習シート
	1	<b>○「結成！ガーナを救い隊」(教室)</b> 今の自分たちができることを話し合い、出た意見を集約して学年議会で提案。当知中1年生による「Yes! We can!」宣言を行い、学年のフロアに掲示。これからの自分の行動を考える。		B紙
	1	<b>○ガーナの協力隊からのメッセージを視聴</b>		メッセージDVD
	3 4	<b>○「ペットボトルキャップ回収大作戦！」</b> <b>○街頭募金活動(校外学習として)</b>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒はガーナとのつながりやそこで起きている問題について「知らない」から「知っている」へと変容した。</li> <li>・実践を通して、他者とのつながりを意識し、「何かしたい」と考えるようになった。</li> </ul>			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は積極的に「誰かのために頑張ろう」と行動することができるようになりたい。</li> <li>・この交流を来年度も大切に、新たな実践を行っていきたい。</li> </ul>			
備考				

タイトル

# あなたの幸せ = カンボジアの幸せ？

A  
03

実践場所	愛知県	あすてあカンテ団体の講座	実践者	井上 愛菜
対象	大学生、社会人		時間数	1時間30分
所属	幼い難民を考える会 あいち	実践教科	—	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分における幸せとは何かを考え、今の自分を見直す。</li> <li>● カンボジアの幸せの価値観を理解する。</li> <li>● カンボジアの現状を理解し、自ら行動することの大切さを知る。</li> </ul>			
実践内容	回	プログラム		備考
		<p><b>「カクテル方式で自己紹介」</b> 対面式で自己紹介を行う。その際に、こんにちは=チョムリアップスアーやありがとう=オークンなどのカンボジア語を用いる。</p> <p><b>「あなたの幸せってなんだろう？」</b> カードを用いり、あなたの幸せにとって必要なものとそうでないものをグループで話し合い分類する。自分にとっての幸せを考えて、今の自分を見直す。</p> <p><b>「カンボジアの幸せを知る」</b> 幸せの価値観は人それぞれであることを知り、カンボジアにおける幸せをアンケートから理解する。</p> <p><b>「カンボジアの現状」</b> 幸せは人それぞれであるが、人間が人間らしく生きていくために最低限必要なものが足りてないことを知る。 →カンボジアスタディーツアー体験 →幼い難民を考える会 DVD</p> <p><b>「私たちができること」</b> <u>布チョッキン</u></p> 		 グループでの話し合いの様子  現状を伝えている様子  家庭訪問した際の写真  保育園に行った際の写真  ☆人形☆
成果	<p>自分を見つめなおしてもらうことにより、深くカンボジアについて知ってもらうことができた。また、自らが行動できることがあることを実感してもらうことができ、これからもカンボジアと関わりたいという気持ちを育てることができた。</p>			
課題	<p>場の雰囲気作りが難しかった。もっとカンボジアを感じる工夫をする必要があると感じた。また、自分が体験したことを伝えることの難しさを実感した。</p>			
備考	<p>資料「世界の国を知る・世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来」(公財)愛知県国際交流協会</p>			

## 一村一品・バナナ繊維 in ラオス

A  
04

実践場所	愛知県	県立東海商業高等学校	実践者	井上 紗由里	
対象	高校2年生 39名		時間数	5時間	
担当教科	商業		実践教科	マーケティング	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオスを知って身近に感じ、日本とのかかわりがあることに気づく。</li> <li>・ラオスでの一村一品運動を知り、「バナナ繊維の布」を流通させる方法を考え、見つけ、実践する。</li> </ul>				
実践内容	回	プログラム		備考	
	1	<b>①ラオスの写真を観て、「日本」を探そう</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スライドを観てその中にある日本企業や日本のものを見つけ、付せん書き、後でグループごとにまとめる。</li> <li>・途中でクイズを挟み、ラオスについての興味を深める(クイズ)</li> </ul> <b>②触って、味わおう</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオスの物(おもちゃ・本・布等)に触れ、よりラオスに親しみを持つ。</li> <li>・「タマリンドキャンディ」を試食し、味覚からもラオスに触れる。</li> </ul>		事前に1グループ 5人程度にチーム分けプロジェクト使用  ラオスボックス使用	
	2	<b>①この布の原料は何でしょう?</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・布に触り、使われている繊維をクイズ形式で考える。(クイズ)</li> <li>・スライドで、繊維ができるまで、布になるまでを確認する。</li> </ul> <b>②布を日本で売り出すには?</b> <p>ラオスの村から日本の商店まで、誰の手を渡ってどういう経路で商品が届くかを考える。現在、その経路のどの部分が足りないかを知る。</p>		※三択クイズ  輸送手段・卸売業者の存在を確認(教科書の内容のふりかえり)	
	3	<b>① 布を売り出そう</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バナナ繊維の布を店頭で販売する際、お客さんにどの部分をアピールするかを考える。(ブレーンストーミング)</li> <li>・布の用途(どんなふうに使えるか)を考える(個人でリスト)。</li> </ul> その後グループで意見交換を行う。		「バナナ繊維」 「手織り」 「丈夫」「珍しい」のキーワードを確認	
	4	<b>②布を加工するなら?</b> <p>クッションカバーなど、バナナ繊維の布を加工するアイデアを出す。(リスト)</p>			
	<b>①ポスターを作ってみよう</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオスの布・または布を加工した製品のアピールをするポスター(POP 広告)を作成する。</li> </ul>				作成したポスターを教室に掲示し、優秀作品を投票する。
成果	<p>スライドやものでラオスを体験することは特に、皆興味深そうに聞きいていた生徒が多かった。クイズ形式にした点も生徒をひきつける効果を発揮できた。布に関するアイデアを出す時間では、グループの中でたくさんアイデアを出せる生徒、一つ考えることが精いっぱいの子と差があったが、受け身ではなく自分で「考える」きっかけにはなったと考えている。教員側が教材準備に努力しただけ、生徒の力がより引き出せること、「教科書」を教えるのではなく生徒の「学ぶ意欲」をいかに引き出すかが肝要なのだと思いますことができた。今後の授業をもっと工夫したいと思う。</p>				
課題	<p>ラオスを少しでも多く伝えたいという気持ちが強すぎ、1、2時間目をすべてラオスを体験することに使ってしまった。写真データの選別に膨大な時間がかかり、結果準備不足になってしまった感がある。実践前に余裕時間をとり、短い時間で効率的にまとめる工夫を重ねる必要があった。</p>				
備考	<p>4時間目のポスター作製については2月後半または3月に実施予定</p>				

タイトル




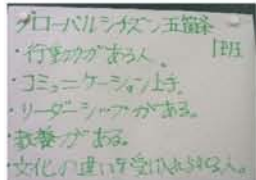
## ラオスと出会う(共に考える)

A  
05

実践場所	愛知県	名古屋市立名東高等学校	実践者	久賀 史恵
対象	国際英語科1年生40名		時間数	3時間
担当教科	英語		実践教科	異文化理解
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオスと肯定的に出会い、課題について考える。</li> <li>・日本を客観的に見る視点を持つ。</li> <li>・参加型の学びを通じて、生徒の知識、興味関心、気づきを引き出す。</li> </ul>			
実践内容	回	プログラム		備考
	第1時	<b>ラオスと肯定的に出会う</b> 1. アイスブレイキング“ラオスを旅するなら…” どんなテーマで旅をしたいか考え、テーマごとの班に分かれる 2. ある・ないクイズ“ラオスってどんな国?” 班ごとに答えと理由を考えさせ、「年長者を敬い、助け合いの精神が強い人々」「学校の体制とその背景」を感じさせる。 3. フォトランゲージ“ラオスの様々な顔” 写真を見て状況を想像し、一人ずつ発表し、後に事実を伝える 4. まとめ“知ったこと、感じたこと” 付せんに書いて班ごとにまとめる		1. PPTで旅の様子紹介 ※研修中に撮影した画像 2. PPT使用、班対抗、答えと理由を用紙に記入 3. 写真を各班8枚配布 町・村、人々の生活・表情、各機関・施設の様子 4. 模造紙と付せん用意 付せん…黄(知ったこと) 桃(感じたこと)
	第2時	<b>ラオスの課題、日本について考える</b> 1. ラオスの課題・日本との共通点 前時に気づいたことが書かれた付せんから「ラオスの課題」、「日本との共通点」を探し、シートの上で分類する 2. 統計から知るラオス 配布資料を見て、統計の数値の中で気になることについて班内で一人ずつ発表する 3. ロールプレイ“各分野で働く人々の話から知るラオス” ラオスで働く人々の写真を見せながらその人のコメントを読み、各分野での課題を知る 4. まとめ“新たに知ったこと、感じたこと” 新たに知ったラオスの課題を付せんに書きシートに追加添付		1. 前時に作成した付せんに添付した模造紙 2. 資料配布 「データバンク」 医療、識字率、エネルギー、産業について 3. 写真各班7枚 表:各分野スタッフの顔裏:その人のコメント 内容:「医療事情」「教育事情」「農業事情」「不発弾」
	第3時	<b>ラオス支援プロジェクト</b> 1. 支援プロジェクトを考える ラオスの課題の一つを取り上げ、支援プロジェクト企画書用紙を完成させる 2. ラオス開発援助の実情を知る JICAのプロジェクト一覧を見て、期待できる成果を考える。		1. 企画書用紙を一人1枚配布。(プロジェクト名、現状、ねらい、必要なもの、などを書く) 2. JICAのプロジェクト一覧を配布
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クイズや画像を通じてラオスと肯定的に出会い、興味、親しみを感じることができた</li> <li>・データや現地スタッフのコメントからラオスの課題を知り、積極的に考えることができた</li> <li>・参加型の学びを通じて生徒同士が関わりながら学ぶことができた</li> </ul>			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオスの持つ課題や、今の日本の現状を深く考えさせる時間と発問が不十分であった</li> <li>・各アクティビティでの深い考察、次のアクティビティへの展開のための時間を確保すべきだった</li> </ul>			
備考	教師がファシリテーターに徹し、生徒自らが感じ考え伝え合うことを中心に授業を進めるよう努めた			

# ガーナを通して考える国際理解講座～グローバルに生きるって何だろう？

**A**  
**06**

実践場所	長野県	松本県ヶ丘高等学校	実践者	田邊紗也子
対象	高校2年生(英語科37名)		時間数	3時間(55分×3)
担当教科	英語		実践教科	英語
ねらい	1. 日本とガーナの共通点、相違点について知り、ガーナと肯定的に出会う。 2. グローバル・シチズンという視点に立ち、世界の課題を共有する。 3. ガーナで働く日本人について知り、グローバル化の時代を生きていくことについて考える。			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1	<b>ガーナと肯定的に出会おう!</b> ① ガーナクイズ ② ガーナBOX 展覧会	☆ガーナBOX 展覧会 	
2	<b>グローバル化って何だろう?</b> [2時間] ① アイスブレイク「同じところ 違うところ」 ② グローバル化による私たちが受ける恩恵 ◇ グループでメリットを出し合い一つずつ発表する。 ③ グローバル化の影 ～課題のある世界に生きる私たち～ ◇ 各自で資料 3 種のうち一つを読み印象に残った数字や状況に線を引く。グループで印象に残った箇所を紹介する。 ④ もしも世界の課題が解決されなかったら ◇ 「もしも世界の課題が解決されなかったら世界はどうか」を考え、模造紙に派生図を描く。	☆資料3種 ◇今地球で起きている30の真実 ◇日本の数字Ⅲ ◇世界の数字Ⅲ ☆派生図 		
5	<b>ガーナで働く日本人</b> ☆フォトランゲージ ◇ グループに配られたガーナで働く日本人の方と関連する写真を見て、その人がガーナでどんな仕事をしている人なのかを想像し、グループ内で共有する。 ☆シュミレーション ◇ ガーナで働く日本人の資料を読み、その人になりきって自己紹介をする。 ☆ブレインストーミング『グローバル・シチズン 五ヶ条』 ◇ 「グローバル・シチズン」とはどんな人だろうか? 『〇〇な人』に当てはまるよう模造紙にまとめる。 ◇ 上記の中から『グローバル・シチズン 五ヶ条』を作る。	☆フォトランゲージ  ☆グローバル・シチズン 五ヶ条 		
成果	生徒同士が意見交換をすることで理解を深めることができた。ガーナに対するステレオタイプや世界の課題が自身と関わっていることに気づき、地球市民として必要な要素を導くことができた。ガーナで働く日本人の方に影響を受け、世界や人のために役立ちたいと考える生徒が多かった。			
課題	密度の濃いプログラムとなった分、それぞれのアクティビティにもう少し時間がかけられるよう、時間が確保できれば良かった。「グローバル・シチズン」という言葉の説明が不十分で混乱する生徒がいた。			
備考	上記プログラムを基に JICA 駒ヶ根で行われた長野県高等学校 10 年経験者研修において「国際理解教育に関するワークショップ」を行った。高校生の視点と大人の視点の違いや、高校生の思考の柔軟性を改めて感じる事ができた。			

## 熊野の森で、日本の森を知って守ろう！～どうすれば持続可能？

B  
07

実践場所	三重県	自然学校(小学生)での講座	実践者	江口 栄司
対象	小学校2年生～6年生 19名		時間数	2時間30分×1回
担当教科	熊野市 地域おこし協力隊		実践教科	
ねらい	1. 身近な自然環境について体験を通して気付き、知る 2. 気付いたこと、知ったことの日本全体への広がりを知る 3. 各自が望ましい行動について考える			
実践内容	回	プログラム	備考	
		<b>0. アイスブレイキング(10分)</b> (1)名刺で自己紹介 ①誕生日 ②好きな生き物 (2)チーム分け 「好きな生き物」に基づき、3グループに分割  <b>1. はじめの会</b> (1)全体像の説明 (2)“I CAN!”テスト  <b>2. 達人との森のお散歩</b> スギ・ヒノキの実物を使った説明や関連する話を交えて散策  <b>3. 「荒れた森」とは？</b> (1)管理された森と放置された森に気付く(チームで話し合い) (2)間伐作業体験(木と綱引き、など)  <b>4. 森の恵みを授かるう！</b> なめこ菌植え体験(チームで作業)  <b>5. おわりの会</b> (1)日本全体の森林状況を知る(クイズにチームで回答) 全土の7割、内4割が人工林、など (2)人工林が荒れる意味を知る(同上) 生物が減る、花粉症が広がる、災害が増える、など (3)望ましい行動について考える(チームで話し合い)	厚紙・テープ  全体像イラスト テスト用紙  現地の自然・写真・資料  現地の自然・写真・資料  なめこ菌・金づちなど 必要な資材  クイズ(口頭)  クイズ(口頭)	
成果	・身近な山を一步踏み込んだ視点で見ると気付きを促すことができた ・体を使って体験・体感することで、比較的強い印象を与えることができた (海水浴などを含む2泊3日のプログラムの中でも、一番印象的だったという感想)			
課題	・終わりの会は、長時間かつ体を使った後ということもあり、じっくり考えることが困難 ・各自ができる望ましい行動を考えるための材料が少々不足している			
備考	・地元の地主、林業家などと連携			

タイトル

## 見たい未来

B  
08

実践場所	三重県	熊野市立荒坂中学校	実践者	江口 福子
対象	中学3年生		時間数	1時間
担当教科	保健・体育		実践教科	保健
ねらい	自分たちの見たい未来で大切なものは何なのかを考える。 自分たちの見たい未来のために何が出来るのかを考え、行動できるようになる。 持続可能な社会とはどういうものかを考える。			
実践内容	回	プログラム	備考	
		<p>①自分の地域の好きなところを知ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の住んでいる地域のいいとこ、いやなとこ(あれば)を書き出す。</li> </ul> <p>②環境破壊について考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境破壊と聞いて思いつくことをなんでもいいから書き、発表し合う。</li> <li>・環境問題が進むことで住んでいる地域のいいとこ、わるいとこがそれぞれどうなるのか話し合う。</li> </ul> <p>③現状を知ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書(持続可能な社会について・環境問題に関するページ)・エヴァン スズキのスピーチ(1992環境サミット)を読む。</li> <li>・感想を話し合う。</li> </ul> <p>④環境破壊の先には何がある？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほど環境破壊というキーワードで書き出したポストイットを並べ派生図にする。</li> </ul> <p>⑤見たい未来は？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが将来住む世界はどんな風になってほしいかを3つあげる。</li> </ul> <p>⑥見たい未来のために何ができる？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちに今出来ることは何かグループで話し合い、発表する。</li> </ul>	<p>黒板</p> <p>ポストイット、ペン</p> <p>教科書 スピーチのプリント</p> <p>大きい紙 ペン</p>	
成果	自分たちの住む地域の良さが再認識できた。 今、自分たちに出来ることを具体的に考えさせることができた。 持続可能な社会を考えることが出来た。			
課題	もう少し時間を考慮し、生徒が考える時間を増やす。 派生図はポストイットでせずに手書きがいい。			
備考	以前から参加型の授業をよく行っていたのでスムーズに進んだ。 二学期に「30の真実」を使い授業を行っていたので環境に興味をもっている生徒がいた。			



タイトル

## どうして古切手を集めるの？～学校に行けない子どもたちの現状を知ろう～

B  
09

実践場所	岐阜県	岐阜聾学校	実践者	大前 奈津香
対象	重複障がい学級・中1, 2, 3年		時間数	7時間
担当教科	音楽・生活単元学習		実践教科	生活単元学習
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界には学校に行けない子どもや、安全な生活が送れない自分たちと同年代の子どもたちがいることを知る。</li> <li>・他のクラスや生徒会が実施している「古切手・書き損じはがき・エコキャップ集め」の目的を理解し、自分たちにできることを考える。</li> </ul>			
実践内容	時間	プログラム		備考
	1	<b>【少年兵士について知ろう】</b> 〈この写真、うそ？本当？〉 ①少年兵の写真→うそ？本当？      ②少年兵の説明 〈少年兵の〇〇くんに会いに「ソマリア」行ってみよう〉 ①世界地図で行く国を確認 ②海外に行くために必要なものは？ (1)パスポートの説明 (2)パスポート申請を疑似体験 (3)身体検査疑似体験 ③飛行機内の映像で飛行気分を！ ④JICAのサイト「地球調査隊より“少年兵士”を見る 〈少年兵の〇〇くんに手紙を書いてみよう〉		準備物 ・少年兵士の写真  ・世界地図 ・パスポート ・申請用紙のコピー ・身体検査の写真 ・機内の様子のかかる映像 ・JICA ホームページ
	1	<b>【児童労働について知ろう】</b> 〈チョコレートってどうやってつくられてるの？〉 ①チョコレートって何からできてる？ ②カカオはどこでとれるの？ (1)お菓子クイズ「これはどこの国で作られてるでしょう？」 (2)チョコレートの製造過程 ③ガーナ・カカオ農園の児童労働の動画を見る。		・世界地図 ・カカオの写真 ・YOU TUBE チョコレート製造の動画 ・DVD「もし世界が100人の村だったら」
	1	<b>【まとめ】</b> 〈自分たちの生活を見直す〉 学校に行けること、命の危険のない生活が当たり前でないことを確認する。 〈今自分たちにできることは何だろう〉 「書き損じはがき・古切手集め」や、生徒会が行っている「エコキャップ集め」について説明をし、参加、協力をしていく。		
	1			
	1			
	1			
成果	世界には、苦しい思いをしている同年代の子がいることを知り、自分たちの生活が当たり前でないことや、戦争や児童労働が無くなってほしいという思いをもつことができた。年賀状の書き損じはがきを持つてくることができた。			
課題	JICAのサイト「地球調査隊より“少年兵士”」は、(アニメで)登場人物の子どもたちが、内戦の現場に実際に行くという設定になっている。それを生徒たちにも感じてもらおうと疑似体験を考えたが、うまくつながらなかった。再度方法を考えたい。			
備考				

タイトル

# 自然と開発、どちらが大事？

**B**  
**10**

<b>実践場所</b>	愛知県	愛西市立佐屋小学校	<b>実践者</b>	服部 いずみ
<b>対象</b>	小学5年生		<b>時間数</b>	10時間
<b>担当教科</b>	小学5年生		<b>実践教科</b>	社会科(総合的な学習の時間)
<b>ねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然と開発の関係性について理解することができる。</li> <li>・ 開発と自然環境が共存できるように、改善策を考えることができる。</li> <li>・ 自然保護活動に取り組む姿勢を育むことができる。</li> </ul>			
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>		<b>備考</b>
	1	<b>【身の回りに、どれだけの環境問題があるかを知ろう！】</b> ① 知っている環境問題を書き出す ② 環境問題がもたらす影響について考える ③ 環境問題が発生する原因について予想する		リスト表 派生図→ギャラリー方式 カード分類表
	2	<b>【藤前干潟にある自然とそこに存在する環境問題について知ろう！】</b> ① 藤前干潟の紹介→「生物多様性」 ② 自然破壊について考える ③ 人間にできることについて考える		→ ギャラリー方式 環境省名古屋自然保護官事務所の職員による出前講座
	3	<b>【自然を守るために、私たちがやるべきことについて考えよう！】</b> ① 「環境を守るために知っておくべきこと」というテーマで、新聞を作成する ② 「藤前干潟などの自然を守るために、私たちがやるべきこと」について考える		出前講座をふり返る 個人で新聞づくり→閲覧板方式 カード分類表→ギャラリー方式
	4~5	<b>【琵琶湖総合開発が人間と自然にもたらしたものは何か？】</b> ① ラムサール条約について知り、日本にあるラムサール条約登録地の確認をする ② 琵琶湖について知る ③ 「琵琶湖総合開発」について考える		派生図→ギャラリー方式
	6	<b>【ラオスを探検してみよう！】</b> ① ラオスについて知る ② 農村部の「よい点」と「このままでは困る点」について考える ③ 都市部の「よい点」と「このままでは困る点」について考える		パワーポイント ②③ リスト表
	7	<b>【ラオスの未来を想像し、創造してみよう！】</b> ① ラオスの都市部と農村部におけるメリット・デメリットについて考える ② 「持続可能な開発」について知る		派生図→ギャラリー方式 指標づくり
	8	<b>【ラオスを明るい未来へと導こう！】</b> ① ラオスの未来について自分の意見をまとめ、グループで話し合う ② ラオス政策書を作成する		カード分類表 →ギャラリー方式 政策書づくり→発表
	9	<b>【自分のできる環境保護活動について考えよう！】</b> ① 環境保護活動について話し合う ② 環境保護活動計画表を作成する		カード分類表 個人で行動計画表づくり
	10	<b>【環境保護活動を続けよう！広げよう！】</b> ① 各自の行動の成果と課題について発表する ② 課題点を改善するための策をねり直す ③ 学級で行う環境保護活動について話し合う		①②リスト表 リスト表→3か条にまとめる
<b>成果</b>	本単元を通して、児童は環境について強い関心をもつことができた。2学期末にあった個人懇談では、多くの保護者から環境に関する話を子どもが話してくれたと聞いている。本単元を通して、自然も開発も大事であるということ、つまり、「持続可能な開発」が今後必要であるということについて理解することができた。また、参加型の学習方法を多用することで、児童一人一人が意見をもつことができた。それらを仲間と共有し合うことで、より深い考えを導き出すことができた。			
<b>課題</b>	自分のできる「環境保護活動」に取り組みさせた結果、一定の成果を挙げることができたが、毎日の生活の中で、いかに具体的な行動として継続していくかが大切である。今後は、粉石鹼の利用やゴミの削減など、児童の活動に対する保護者の理解や協力を得るための情報発信を進めるとともに、保護者を巻き込んだ活動・実践を行っていきたい。			
<b>備考</b>	児童に、環境問題に関するより深い考えをもたせるため、NHK for school「ど～する？地球のあした」シリーズを朝の読書の時間を利用し、鑑賞させた。番組終了後には、必ず感想を書かせ、その感想を学級通信で紹介した。また、10冊程度の環境に関する本をブックスタンドに立てかけ、休み時間等に気軽に環境についての知識を身につけられるように工夫した。			

タイトル

## うしとみずの気になる関係

B  
11

実践場所	愛知県	名古屋 NGO センター ワークショップ講座	実践者	三浦奈苗
対象	一般(国際理解教育に関心のある人)		時間数	2時間
所属	名古屋 NGO センター		実践教科	
ねらい	バーチャルウォーターを通して、日本の豊かな生活は世界とのつながりで成り立っていて、世界の水問題は私たちと無関係ではないことを理解する。 そして、それらの問題解決に向け自分にできることを考え行動できるようになる。			
実践内容	時間	プログラム		備考
	25分	<b>【1.アイスブレイク&amp;バーチャルウォーターとはなにかを知る】</b> ①自己紹介◇呼ばれたい名前◇好きな牛肉を使った料理は？ ②バーチャルウォーターの概念を知る(10分) ③バーチャルウォーターランキング(10分) ★5つの食べものの VW 量が多い順ランキングを考え、理由とともにひとりずつグループ内で共有		PC、プロジェクター  パワーポイント 食べもののカード、A4 用紙
	15分	<b>【2.うしと飼料穀物の関係を知る】</b> 地球データマップ『飢える国・飽食の国』視聴(15分) ★視聴後、グループで「印象に残ったこと、気付いたこと、感じたことなど」感想を話す→全体で共有→PPTにもどり水資源量について説明		PC、プロジェクター、 VTR(Web)
	45分	<b>【3.世界の水問題について考える】</b> ①世界にはどんな水問題があるのだろうか？(15分) ★世界には水に関わるどんな問題があるのかをポストイットに書き出し、KJ法でまとめる ②世界の水問題を考えるための4つの情報(10分) ★ひとり1種類ずつ資料を読み、グループの他の人にポイントを共有→これらの情報から読み取ったことを①のKJ法に追加 ③水問題をそのままにしておいたらどうなってしまうだろうか？(10分) ★別の模造紙にKJ法でまとめたカテゴリー名を書き写し、これらの問題をそのままにしておいたらどうなってしまうかを派生させる →②③2枚の模造紙をギャラリー方式で他グループに共有(10分)		半模造紙、ポストイット、ペン  資料  全模造紙、ペン
	30分	<b>【4.水問題を解決するためにできることを考える】</b> ①解決の手立てを考えるための4つの情報(10分) ★ひとり1種類ずつ資料を読みグループの他の人にポイントを共有 ②解決のためにわたしができること(10分) ★ポストイットに吹き出しを書き『わたしにできること』を記入、3のワークで作った水問題派生図のどの部分に対して行動できそうかを伝え合いながら貼り出す ※解決のための手だても模造紙に貼ってよい →グループごとに発表(10分)		資料  ポストイット、ペン
成果	当たり前前に食卓に並んでいる「うし」が、実はたくさんの「見えない水:バーチャルウォーター」を消費していることを知り、水は限りある資源であり世界の水問題は私たちの豊かな食生活を無関係ではないということに気づき、その解決のための段階や自分にできることを考えることが出来た。			
課題	2時間という短い時間の中で、バーチャルウォーターの概念を知ってもらいたく、世界の水問題と解決策を多面に考えたかったがために内容のボリュームが大きくなってしまい、こちらからの情報提供が多くなってしまった。どこかを削っても、参加社自身が手や頭を動かし参加できるアクティビティを使う方が良かった。			
備考	参考図書:水危機ほんとうの話(沖大幹著 新潮選書) 水の未来(フレッド・ピアス著 日経BP社) ウォータービジネス(モード・バーロウ著 作品社) 水の世界地図(沖体幹監修 丸善)			

# ガーナから日本へ、日本から世界へ

B  
12

実践場所	愛知県	名古屋市立名東小学校	実践者	水谷 直文	
対象	小学6年生	時間数	8時間		
担当教科	小学6年生	実践教科	総合的な学習の時間 社会科		
ねらい	ガーナを題材にした課題について考えることによって、自分の生活や環境を見直したり、より広い視野で考えたりすることができるようにする。				
実践内容	回	プログラム	備考		
	1・2	<b>「世界を身近に感じよう」(総合)</b> ○ 「ガーナクイズ」 ・ ガーナ研修での画像から作ったクイズを通して、日本との共通点や相違点を知る。 ○ クイズ作り ・ アトランダムに選んだ国の資料を元に、グループでクイズを作成し出し合う。また、クイズの後で「他国のことをもっと知るにはどうしたらいいか」をグループで考える。	ガーナ研修の画像  国際理解教材 (愛知国際交流協会)		
	3・4	<b>「学校に行けない子がいるのはなぜ？」(総合)</b> ○ 絵本「そのこ」から、ガーナのカカオ農園における児童労働問題について知り、原因を考えた上で、解決案を発表し合う。	「そのこ」 (谷川俊太郎)		
	5	<b>「海外で働く人のやりがいを知ろう！」(社会)</b> ○ ガーナで働く協力隊員や専門員たちの写真とコメントを組み合わせるクイズをする。また、コメントの中から、「やりがい」や「苦勞」を見つける。	ガーナ研修の画像		
	6	<b>「自分の国の歴史は知っておくべき？」(社会)</b> ○ 奴隷貿易の拠点となったケープコーストの写真や奴隷貿易に関する絵からストーリー作りをする。 ○ ガーナの学校では、「奴隷貿易」について教えないことを知らせ、「自分の国の歴史を知るべきか」、また、「歴史を知らないとどうなるか」について意見を出し合う。	ガーナ研修の画像 「あなたがもし奴隷だったら・・・」 (ジュリアス・レスター) 「奴隷と奴隷商人」 (創元社)		
	7・8	<b>「私たちにできることは何？」(総合)</b> ○ 資料や画像、映像を使って、国別の水の使用量や国ごとに水を得る環境の大きな差があることなどを知る。 ○ ポリバケツの水を持ち運ぶ体験によって、水汲みが重労働であることを体感する。 ○ 「わたしが取り組む3箇条」を作成する。	「世界と地球の困った現実」(明石書店) 「世界の水問題」 (JICA ブックレット) 水をください[映像] (プラン・ジャパン)		
	成果	参加型の学習方法を取り入れ、全員が話したり書いたり紹介し合ったりする活動によって、漠然ともっていた思いをはっきりとした考えに変えることができた。多くの児童が、自分たちの常識が世界の常識ではないことを、「驚き」だけではなく「課題」として受け止めることができた。			
	課題	「ガーナの抱える問題」について取り上げる学習内容が中心となった。解決策について一生懸命に考えることはできたが、果たしてガーナという国を肯定的にとらえさせることができたかは疑問である。よい面や共通点についても、もっと取り上げるべきだったかもしれない。			
備考	「奴隷貿易」の内容など、小学6年生に取り上げてよいのか迷いがあった。しかし、日本の歴史(特に戦争)について学習してきたことや、日頃から海外での出来事(アルジェリアでの人質襲撃事件など)を紹介し、また、関心を寄せている児童も多いことから思い切って取り上げた。				

タイトル

## わたしたちのお弁当の秘密

B  
13

実践場所	静岡県	三島市長泉町役場「いずみの郷」	実践者	吉原峰代
対象	小学生(3年生~6年生)と保護者		時間数	135分
所属	アースカレッジ東部ネットワーク ちゃんぷるIndonesia		実践教科	—
ねらい	日頃食べているお弁当(給食)の食材を通して、日本の食糧事情と輸入先(相手国)で起こっている現状に気づき、自分たちのできる事を考える。			
実践内容	時間	プログラム		備考(準備物)
	1. 20分	部屋の四隅 グループ分け 自己紹介	どこから来たの、何年生、好きな給食 バナナ8種類のイラストで 呼んでほしい名前 ○○ちゃんのとなりの○○です。 <b>本日のルール(仲良く、楽しく)</b>	四隅用パネル
	2. 10分	お買い物ゲーム	キルトの野菜・食材を選ぶ(1人2つ) グループのお弁当箱1つに詰める	おかずメニュー表 お弁当箱
	3. 10分	お弁当づくり	栄養面でのアドバイス(学校給食担当栄養士)	栄養素ファイル
	4. 10分	どこから来たの	世界地図に食材を置いていく	世界地図
	5. 20分	答え合わせ 解説	日本の食材が少ない事に気づく ナイルパーチ、エビ、タコ、カボチャ、鶏肉、 しいたけ、アスパラ、小麦、コーン、パーム油	
	6. 15分	5分 書き出し 振り返り・書き出し	気づいたことを付せんに個々書き出す グループで模造紙に貼る	模造紙 付せん プロッキー
	7. 15分	発表	ファシリテーターが誘導 1グループ1つ良い案を子どもに発表させる	
	8. 10分	休憩	世界のお菓子を試食(フェアトレードチョコレート、えびせん他)	お菓子
	9. 15分	バナナの話	紙芝居 バナナはどのようにして運ばれてくるのか、 安く買える仕組み、フィリピンの子どもたちの様子、 食生活、児童労働	紙芝居
	10. 10分	自由研究のヒント	パワーポイントで説明	配布プリント
11. 10分	まとめ	今日学んだことを3つ みんなでA4に記入 グループで1つ発表	記入用紙	
成果	お弁当の食材が世界各国から輸入されているということが大枠で理解できた。 子どもたち、保護者チームとも楽しそうに取り組んでいた。			
課題	最後までグループになじめない子どもがいたため、アイスブレイキングにもう少し時間を取り、コミュニケーションがスムーズになるための工夫が必要。 子どもたちが意見交換する場を、もう少し取り入れた方がよい。			
備考	共同実施者: 安本和正・木下美保・植木さつき			

タイトル

## 貿易ゲームから世界を見つめる

C  
14

実践場所	愛知県	名古屋市立平田小学校	実践者	岡島 正樹
対象	小学6年生		時間数	5時間
担当教科	6年生		実践教科	総合的な学習
ねらい	貿易ゲームを通して、世界の格差に気づき、貧困の問題を抱える開発途上国の現状について学習する。また、貧困の問題を解決するための方法について考え、自分から行動できるようにする。			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	<p>○グループで自己紹介 「4つの自分、1つはウソ」を行い、各グループで自己紹介する。</p> <p>○フォトランゲージ バングラデシュの子どもたちの様子(廃棄物処分場で働く子ども、路上で生活する子どもたち)の写真を見て、写真に写る子どもたちの立場に立って、自己紹介文を考える。</p>		愛知県国際交流協会発行「わたしたちの地球と未来 バングラデシュ編」
	2・3	<p>○貿易ゲーム A(先進国)1グループ、B(新興工業国)2グループ、C(開発途上国)3グループに分かれて、貿易の疑似体験をする。グループにより、生産物や道具や持ち金などの設定を変えて行う。</p>		シミュレーションゲーム「貿易ゲーム」(JICA「発行教室から地球へ」参考)
	4	<p>○貿易ゲームの振り返り ・ゲームを行っての感想を付せん紙に記入し、グループでまとめ、その後読みをする。 ・貿易ゲームで起こったことと、実際の世界で起こっていることを結び付ける。</p>		フィリピンのバナナ作りの実態
	5	<p>○貧困について派生図づくり グループごとに、貧困をキーワードにした派生図づくりを行う。作成した派生図を見て、感じたことや気付いたことをグループで共有する。</p>		1日1ドル未満で生活する人の統計
	6	<p>○解決策シートの作成 派生図を見ながら、どこから解決していけばよいか、グループごとにランク付けしながら解決策を考える。</p>		・フェアトレードの紹介
成果	シミュレーションゲームを通して、ゲームの中で起こったことと、現実の世界の様子を結び付けて考えることができた。これまで、世界の格差や貧困の問題について考えたことがない児童が、積極的に活動に参加し、問題解決に向けて意識を高めることができた。			
課題	「わたし」「あなた」「みんな」のつながりを感じさせることがなかなかできない。「わたし」のよさに気づくことができず、自分のことが好きであると言えない児童が多い。継続的な実践で、児童の考え方を変えていくことが必要。			
備考	子どもたちが体感して、そこから考え方を広げることができる学習はとても大切であると感じた。			

## 現代の奴隷制と身近な貧困

C  
15

実践場所	愛知県	名城大学附属高校	実践者	澤田麻衣
対象	高校2年生		時間数	6時間
担当教科	英語		実践教科	英語
ねらい	現代の奴隷制や貧困といった問題を通じて、社会問題は「可哀想な貧しい国の人々」のものだけではなく、豊かな生活を享受する自分たちにも関わりがあり、責任があることを知る。			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1	<b>「ガーナとの出会い」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガーナに関するクイズを通して、ガーナについて知る</li> <li>・ ガーナで働く日本人の写真から何をしている人が想像する →実際の自己紹介を読み、その人になりきって自己紹介</li> </ul>	パワーポイント フォトランゲージ ロールプレイ	
	2	<b>「現代の奴隷制について知ろう」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代の奴隷について講演を見る(ガーナの事例も含まれる)</li> <li>・ Kevin Bales 著 Disposable People の第一章を読み、現代の奴隷制について知る</li> </ul>	リサ・クリスティン 現代奴隷の目撃写真 www.ted.com  Kevin Bales 著 Disposable People	
	3	<b>「現代の奴隷制について考えよう」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Disposable People の感想を話し合う</li> <li>・ 「奴隷のいる世界」を放っておいたらどうなるか話し合う</li> </ul>	派生図	
	4	<b>「身近に潜む奴隷」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Beth Shulman 著”The Betrayal of Work”に紹介されているアメリカ合衆国で低賃金労働に従事する3人の労働者について読み、班員に紹介する。</li> <li>・ 日本における外国人研修生の問題について知る</li> </ul>	Beth Shulman 著 The Betrayal of Work  「ルポ 差別と貧困の外国人労働者」 安田浩一著	
	5	<b>「奴隷とわたし」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何人の奴隷が自分のために働いているかを知る</li> <li>・ 貧困の構造を知り、自力で脱出する困難さを理解する</li> </ul>	Slavery Footprint slaveryfootprint.org	
	6	<b>「貧困は誰のせい？」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「貧困は個人の責任である」というテーマについて、3人組で「賛成」「反対」「ジャッジ」に分かれ、討論する</li> </ul>	デイベート	
成果	開発途上国での奴隷の事例を紹介した時は憤りを感じながらも、「こういったことが早く世界からなくなってほしい」という感想がほとんどであったが、アメリカ、日本と事例を先進国に移す中で、生徒の反応も「なんとかしなければ」という当事者の意識が芽生えたことは大きな成果であった。			
課題	あくまで英語の授業の一環として行ったため、理解度に差が見られた。ただし、宿題にした英文は授業内のグループワークで他のクラスメイトと日本語で内容確認をさせたため、全く理解できないということはなかった。			
備考	上記のねらい以外に、英語の授業としてのねらいは以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語自体を学ぶのではなく、英語をツールとして新たな知識を獲得するという経験をさせる</li> <li>・ 社会問題について自分の意見を英語で言えるようにする</li> </ul>			

# ガーナを通して世界を見つめよう。地球市民としての生き方を考えよう。

C  
16

実践場所	岐阜県	県立本巣松陽高等学校	実践者	高橋恵子
対象	高等学校2年生	時間数	7時間	
担当教科	英語	実践教科	総合、英語Ⅱ	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なものからガーナに興味関心を持ち、日本とガーナとの違いを肯定的に理解する。</li> <li>・ガーナの小学校を切り口に、学ぶことの大切さと貧困問題について考える。</li> <li>・世界が抱える問題に目を向け、地球市民としての生き方を考える。</li> </ul>			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1限	<b>「ガーナってどんな国？」</b> アイスブレイキングは「仲間さがし仲間こわし」 1)ガーナクイズ：位置、国旗、カカオの秘密、食べもの 2)ガーナのものを持ってこよう：ものさがし 3)ガーナフォトクイズ：グループで1つ出題 4)まとめと振り返り	パワーポイント ガーナBOX(実物) クイズ用写真と解説シート	
	2限	<b>「ガーナの学校に行ってみよう」</b> アイスブレイキングは「3つの私と1つのうそ」 1)写真に吹き出しをつけよう：フォトランゲージ 2)ガーナと日本の学校を比べよう：相違点の対比表 3)まとめと振り返り	人物写真 ガーナの小学校の写真、動画クリップ、模造紙、色マジック	
	3限	<b>「文字が読めないということ」</b> アイスブレイキングは「世界の言葉でこんにちは」 1)薬がほしい：文字が読めない家族が薬を選び、病気の子供がその薬を飲むというロールプレイ 2)学校に行けない：原因(←)と結果の(→)派生図 3)まとめと振り返り	ペットボトル(水、サイダー、桃の天然水) ロールプレイングの役割カード、模造紙、色マジック	
	4限	<b>「貧困の輪を断つには」</b> アイスブレイキングは「ガーナのこれがお気に入り」 1)貧困って何だろう：因果関係の派生図 2)ぐるぐるまわる貧困の輪：貧困の連鎖・悪循環を断ち切る方法・JOCVの活動紹介	ガーナのお土産 模造紙、色マジック 貧困カード8枚	
	5限～7限	<b>「絵本 Alissa から考える私の生き方」</b> 1)～3)までの使用言語は英語 アイスブレイキングは「なりきり自己紹介」「富の配分」 1)絵本 Alissa を読もう：朗読CDで聴き読み・役割(司会係、つながり係、挿絵単語係、段落係)決め・Discussionの準備 2)役割シートを完成しよう：自分の役割読みと質問作り 3)絵本 Alissa について語ろう：Literature Circlesで読みの過程を共有(物語と自分とのつながり、世界と自分とのつながり、自分自身の生き方、国際協力のありかた) 4)まとめと振り返り	人物写真 茶、お菓子 絵本 Alissa Literature Circlesの役割シート	
成果	写真や実物にふれるたびにガーナやアフリカへの興味関心が増し、世界とのつながりを実感することができた。また、ガーナ小学校や絵本を切り口に自分の生き方を見つめ直し、貧困や国際協力という大きな問題を考えることができた。参加型のグループワークでは、自分の考えを少しずつ出せるようになった。			
課題	1限(50分)は短すぎて振り返りの時間を十分とることができず、気づきを共有することが十分できなかった。グループ活動がうまくいかないときに、ファシリテーターとして適切な助言を与えられるようにしたい。教科教育にも国際理解教育の視点と参加型の手法を積極的に取り入れ、継続的に取り組んでいきたい。			
備考	『ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら』2011年、開発教育協会 愛知県国際交流協会『私たちの地球と未来、モロッコ共和国』2009年 C.J.Moor『Alissa』2008年、Macmillan LanguageHouse			



## 日本とカンボジアのしあわせな暮らし

C  
17

実践場所	愛知県	大口町立大口西小学校	実践者	永田 和久
対象	小学2年生(29人)		時間数	5時間
担当教科	小学校2年生		実践教科	学級活動・道徳
ねらい	① 「しあわせ」になるために、自分が本当に大切に思っていることが何であるのかを知る。 ② 日本(先進国)とカンボジア(途上国)で、どちらが よりしあわせを感じるができるのかを比較し、「しあわせ」についての考えを深める。			
実践内容	回	プログラム		備考
	1 (3時間)	<b>日本とカンボジアをくらべてみよう!</b> ① <b>アイスブレーキング(4つのコーナー)</b> ② <b>日本とカンボジアのちがいをを見つけよう</b> グループごとにテーマ別の日本とカンボジアの写真を見て、違いをポストイットに書く。書いたポストイットを、読みながら模造紙に貼っていく。クラスに1番伝えたいものを1人1つ選び、◎をつける。 ③ <b>テーマ別に日本とカンボジアの違いを発表しよう</b> グループごとで、クラスに◎をつけた項目を発表する。 ④ <b>日本とカンボジアのどちらが自分にとっていいか考えよう</b> それぞれのテーマに対し、「日本」「どちらかといえば日本」「どちらかといえばカンボジア」「カンボジア」を選ぶ。そして、グループで理由を含めて発表する。		テーマ 「家族」「家」「町と村」「スーパーと市場」「周りの景色」 ☆発表模造紙(例) 
2 (2時間)	<b>しあわせについて 考えよう!</b> ① <b>アイスブレーキング(3つのお題で自己紹介)</b> ② <b>自分にとって しあわせに必要なことを選ぼう</b> 12枚のカードを、しあわせに必要なものとそうでないものに分ける。一番必要なカードに◎、そうでないカードに×を付ける。 ③ <b>グループで、しあわせに必要なことを伝え合おう</b> ◎と×を付けたカードを理由を含めてグループで発表する。模造紙に、しあわせに必要な方のカードを貼っていく。 ④ <b>自分が本当に大切に思っているものを知り、日本とカンボジアのしあわせを比べよう</b> グループごとに、多かったカードを第2位まで発表する。クラスで半分以上選ばれた項目が、日本とカンボジアのどちらに、よりたくさんあるかを考える。		☆カード(愛知県国際交流協会「わたしたちの地球と未来」参考)  ☆発表模造紙(例) 	
成果	小学校2年生であるが、どの活動も意欲的に取り組んでいた。自分が本当に大切に思っていることを知り、今後より大切にしていこうとする児童や、カンボジアにも幸せがあることに気づいた児童も多数いた。(ふりかえりシートより)			
課題	小学校低学年であるため、1つ1つの活動に時間がかかったり、理由を言えない児童が数人いたりした。さらに活動を分かりやすく工夫したり、発言の仕方を詳しく伝えたりする必要があると思った。			
備考	今回、授業実践を行ったが、2年生の年間カリキュラムにない内容であったことから、実践することが少し難しかった。			

タイトル

## Look at Our World!

C  
18

実践場所	愛知県	愛知商業高等学校	実践者	藤澤陽子
対象	高校2年生		時間数	4時間
担当教科	英語		実践教科	OC I
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる社会と文化について学び、世界が多様であることに気づく。</li> <li>・貧困の生まれる仕組みについて学ぶ。</li> <li>・社会や世界の問題に目を向け、自分の問題として考えることの大切さに気づく。</li> </ul>			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	<b>&lt;多様な社会の在り方に気づく&gt;</b> バングラデシュビンゴゲーム ・食事や服装、宗教、社会習慣、人々の暮らしについて知る ・バングラデシュが抱える問題について知る		パワーポイントでバングラデシュの写真を紹介する
	2	<b>&lt;なぜ貧困は生まれるのか I &gt;</b> ①貿易ゲーム 貿易を通じて経済格差が生まれていることに気づく ②フェアトレードの紹介 ・一杯のコーヒーについて考える ・身近にあるフェアトレード商品を知る		紹介したフェアトレード商品: コーヒー、チョコレート、石鹸
	3	<b>&lt;なぜ貧困は生まれるのか II &gt;</b> ①写真の人物になりきって自己紹介 ②ストリートチルドレンの生い立ち ストリートチルドレンになってしまう原因を考える ③貧困の輪 ・貧困が生まれる原因と貧困の構造について考える ・貧困から抜け出すために必要なことを考える		ストリートチルドレンの写真を使って自己紹介  模造紙に貧困の輪を作成
	4	<b>&lt;ふりかえり&gt;</b> ①3回の授業の振り返り ・日本とバングラデシュを比べて気づいたこと、感じたこと ・貧困の和を断ち切るために必要なことは? ・「豊かさ」とは? ②3回の授業を振り返って感じたことをまとめる		ポップコーン形式で知ったこと気付いたことを振り返る  個人で感想や疑問点を紙にまめる
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒の中に異なる文化を肯定的に受け入れようとする様子が見受けられた。</li> <li>・貿易ゲームや貧困の輪のアクティビティーを通して、世界や社会の在り方について考えることができた。</li> <li>・日本とバングラデシュの暮らし方の違いから、「豊かさ」について考えることができた。</li> </ul>			
課題	どの回も時間が足りず、その回の中で十分に振り返りができなかった。今回は、当初3回の予定だったところを1回増やし、4回目に1～3回の振り返りを行った。しかし、時間が空くと記憶が薄れてしまうので、やはりその回の中で振り返りまですることが大切だと感じた。			
備考				

タイトル

## 地雷原に咲く子どもたちの笑顔

C  
19

実践場所	愛知県	小牧西部地区ボランティアの集い	実践者	山田 勝己
対象	中学生～一般(180名)		時間数	70分
所属	CMC カンボジア 地雷撤去キャンペーン		実践教科	—
ねらい	同じアジアの、同じ仏教国であるカンボジアの子どもたちが直面している諸問題を知り、気づきを築きに変える。			
実践内容	時間	プログラム		備考
	5分	【カンボジアとはどんな国か？①】 (イントロダクション) ・カンボジアの位置、日本からの行き方、インフラの整備されていない生活の様子を簡単に説明する。 ・ミニクイズ:「これはなんでしょう?」・地雷被害の伏線 写真① 炭		Power Point を使用 フォトランゲージ
	10分	【カンボジアとはどんな国か？②】 (アイスブレイク) ・全員参加による「えっ? カンボジアそれってウソ? ホント?」		愛知県国際交流協会 「私たちの地球と未来」 カンボジア編
	15分	【カンボジアの子どもたちはどんな困難を抱えているか？①】 ・数枚の写真画像を見せ、子どもたちの抱える困難を想像する 写真② ゴミ山 写真③ HIV 写真④ 学校の廊下 写真⑤ 物乞い 写真⑥ 地雷原 ⇒ 地雷とは何か?		フォトランゲージ
	10分	【地雷が「悪魔の兵器」と呼ばれる理由】 ・ミニレクチャー:地雷の持つ3つの特徴 「残存性」「無差別性」「残虐性」		
	10分	【カンボジアの子どもたちはどんな困難を抱えているか？②】 ・地雷被害に遭った子どもたちの写真画像を見せ、地雷の本当の恐ろしさを説明する		
	10分	【地雷原を体験してみよう!】 ・地雷原体験コーナー 目隠しをして裸足のまま異物を踏まないように歩いてもらう		シミュレーション
	10分	【まとめ】 (ふりかえり) ・同じ地球に暮らす子どもたちの状況から気づいたことは何か? ・その子どもたちのために何かできることはないか?		
成果	参加をしていた小牧西中学校の生徒さんたちの気づきが築きにつながり、文化祭で地雷問題について発表し、募金活動につながった。その様子はマスコミにも報道される。			
課題	一般参加者が180人という大きな集団に対して参加型の手法を効果的に実践することが難しかった。			
備考				

## 学校に行きたくない？

C  
20

実践場所	岐阜県	岐阜市立境川中学校	実践者	割石 裕美子
対象	中学校3年生		時間数	4時間
担当教科	社会科		実践教科	公民的分野
ねらい	教育を受ける権利についての派生図を作成したり、教育を受ける権利を求める世界の子どもの現状について考えたりすることを通して、教育を受ける権利の大切さを理解する。			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	<p>○アイスブレーキング 国クイズ</p> <p>○自分にとって「必要なもの 必要でないもの」は何だろう？</p> <p>・20の事柄が書かれたカードに、さらに4つ自分が生きていく上でどうしても必要なものを絵で書いてつけ加える。</p> <p>・教師のリードでその中から2個ずつ、いらぬものを消していく</p> <p>・最終的にどうしても必要なものを10個まで減らす。</p> <p>・班で残したものを交流しあう。</p>		「必要なもの 必要でないもの」カード (ユニセフ資料)
	2	<p>○もし、教育が受けられなかったら？</p> <p>・困ることを考え、グループごとに派生図を作る。</p> <p>・一人一色で色をわける</p> <p>・一人一人順番に言葉で言いながら派生図をつくる</p> <p>・いろいろな色が混じるように仲間の意見につなげる</p> <p>○班ごとにB紙を発表する。</p> <p>・B紙を順番に違う班にまわす。・「なるほど」と思った意見や「同じだ」と思った意見に★印をそれぞれがつける。</p>		B紙 プロッキー
	3	<p>○多くの国が「教育を受ける権利」が保障されていない現状を知る。</p> <p>○どうして教育が受けられないのだろう？</p> <p>(作業1) 一人ずつバラバラの写真を配付し、なぜその国は教育を受けることができないのか、自分の考えを班内発表。</p> <p>(作業2) 担当となった国の現状を資料で読み、なぜ教育を受けることができないのか、わかったことを班内で発表。</p>		写真6枚 (国連NGO ワールドビジョンジャパン)  説明の紙6枚 (国連NGO ワールドビジョンジャパン)
	4	<p>○「世界がもし100人の村だったら」ビデオ視聴</p> <p>・学校に行きたくても働かなければいけない子どもたちのビデオを見て、よりリアルに現状を知る。</p> <p>○わたしたちにとって教育を受ける権利とはどんな権利か？</p> <p>・一人一文ずつ紙に書き、班内で発表しあう。</p>		「ガーナのカカオ園」 (世界がもし100人の村だったら ビデオ)  A4紙 プロッキー
成果	<p>・多くの生徒が1時間目では「教育を受ける権利」を必要でないものに分類する。しかし、この授業を通して「教育を受ける権利」がいかに大切であり、自分にとって必要なものであるかを実感することができた。</p> <p>・世界に対して自分ができていることを考えたいと思うきっかけをつくった。</p>			
課題	<p>・実際の指導要領の時数とずれるため(かなり時間をかけるため)、単元を通して時数をあわせる必要がある。</p>			
備考	3時間目の資料は「国連NGO ワールドビジョンジャパン」のHPを利用して作成した。			

タイトル

## ホントの多文化共生社会とは？

D  
21

実践場所	愛知県	県立南陽高等学校	実践者	磯部 真輝
対象	高校1年生	時間数	2時間	
担当教科	地歴・公民	実践教科	現代社会	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこかで世界とつながっていることを知る。・多様な文化と共生していくことの大切さに気づく。</li> <li>・多文化共生社会とは、外国だけの問題ではなく、高齢者の方々などもふくまれることに気づく。</li> <li>・国籍も性別も年齢も障害の有無にも関わらず、誰もがみんな暮らしやすい社会を目指す心を養う。</li> </ul>			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1	<p>&lt;もし外国とのつながりがなくなったら&gt;</p> <p>1 今日の朝からここまで、自分に関わった物・人・ことなどをみんなでどんどん出し合う。</p> <p>2 外国とつながりがなかったらなくなってしまうものを消す。</p> <p>3 1、2で考えたことを念頭に、もし外国とのつながりがなくなってしまうたら私たちの生活がどうなるか考える。</p> <p>4 各グループでわかったことを発表し、共有する。</p>	<p><u>ブレインストーミング</u></p> <p>・模造紙</p> <p><u>派生図</u></p> <p>・模造紙</p>	
	2	<p>&lt;お年寄りを大切に作る社会&gt;</p> <p>1 おじいちゃん、おばあちゃんとは何歳ぐらいからか考える。</p> <p>2 自分の周りにお年寄りほどんなことで困っているのか考える。</p> <p>3 現在の日本と韓国の65歳以上の割合を資料から読み取る。</p> <p>4 10年後、20年後はそれぞれどう変化しているか考える。</p> <p>5 10年後、20年後のそれぞれの割合を資料から読み取る。</p> <p>6 若い人が少なく、お年寄りが多い社会、さらに国際化が進む社会の中でみんなが楽しく困らないで幸せな生活をしていくためにはどうすればいいか？どんな社会になっていけばいいか。思い描く理想の社会を考える。</p>	<p><u>ブレインストーミング</u></p> <p>資料を提示する。</p> <p>・資料①</p> <p>資料を提示する。</p> <p>・資料②</p> <p><u>ブレインストーミング</u></p> <p><u>指標作り</u></p> <p>・模造紙</p>	
成果	1回目の授業は特に意欲的に取り組むことができた。最初のブレインストーミングでは、「世界とのつながり」をなかなか実感できなかったようであったが、派生図を描いていくと、「なるほど。」「確かに。」との声が聞こえ、多様な文化と共生していく大切さに気づく生徒が多くなった。お年寄りが困っていることを挙げる中で、「自分がまだできていないことが多い」とちょっと立ち止まって自己を反省する生徒がいた。みんなが幸せな社会をまだ漠然としてはいるが、目指そうとする態度が養われた。			
課題	他人の意見はどんなものでも否定してはいけないと話したが、浸透しきれず不徹底であった。そのため、意見が広がりにくい環境がつけられてしまったグループがあった。全体的に時間配分がぎりぎり、グループの成果物を全体で共有する時間がほとんどとれなかった。「思い描く理想の社会を考える」ところでは、考える内容が抽象的すぎて、話が広がりきらなかった。もう少しイメージしやすいよう手立てを用意しておくべきであった。			
備考	・各グループ5～6人 資料：国連人口統計			

タイトル

# アフリカから学ぶ、天中をもっとよくしていく方法

D  
22

実践場所	長野県	天龍村立天龍中学校	実践者	梨本絵理香
対象	中1～3 全校 18名		時間数	7時間+朝の活動15分×2
担当教科	道徳主任・英語科・中1担任		実践教科	道徳・総合
ねらい	○世界には、いろいろな感じ方や考え方があっておもしろいことに気づく。 ○人種差別の背景にある歴史的事実(奴隷貿易)について知り、差別は不公平さや一方の利益を優先させた人間の愚かさが生んだことに気づく。 ○課題を自分の生活に引き寄せて考え、気遣いのある行動をとることができる。			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	<b>ガーナ報告会</b> ○3人グループで、ガーナクイズを通してガーナに肯定的に出会う。「ガーナの深イイ話」で他チームにトリビアを紹介する。  <b>校長講話</b> (長野県の部落差別と、それに対抗した取り組み)		・パワーポイント資料 ・深イイ話(12種類) ・ガーナチョコレート  ・朝の活動
	2	<b>奴隷貿易の真実</b> (1)3つの写真から知ろう! : 奴隷捕獲・城塞・地下牢の写真を見て、どんな写真か書き出した後、解説文とマッチングし、時系列に並べる。 (2)ストーリーをつけ加えよう: さらに4枚の写真と解説文のマッチング。時系列に写真を並べ、他グループにストーリーを自分の言葉で語る。  <b>全校読み聞かせ</b> (絵本「とべないほたる」) ★国語科主任		・70分授業 ・絵本「あなたがもし奴隷だったら」 ・写真・解説文(3枚+4枚×2パターン)  ・朝の活動
	3	<b>六千人の命のビザ(道徳) ★授業者は各担任</b> ○読み物資料またはビデオを通して杉原千畝さんの決断について考え、正義を大切にしたいという心は私たちみんなの中にあることに気づく。		・読み物資料/ビデオ
	4/5	<b>「ソーテ・サワサワ 人間みな同じ」小林フィデアさん講演会</b> ○タンザニアでの生活や活動・自身が長野で受けた差別体験について。		・講演時間 120分 ・小林フィデアさん :タンザニア出身でエイズ孤児らを支援するNPO「ムワンガザ・ファンデーション」代表。
	6	<b>天中が過ごしやすい理由 ★授業者は各担任</b> ○学年ごと、いじめを生まない天中の環境のよさについて考える。		
	7	<b>天中のよさを共有しよう ★全校集会</b> ○学級長が全校に学年で出た天中のよさを発信・共有し、これからも大切にしていきたいこととして確認する。人権旬間のまとめ。		
	成果	参加型の手法によって、生徒たちは奴隷貿易について「なぜ？」という視点を持ち、そのシステムはいじめや差別を生むメカニズムと同じだということに気づいていった。最終的にはねらいとしていた、自分の生活に引き寄せて考えることができ、学校生活で大切にしていきたいことを確認することができた。		
課題	参加型では「学び合い」が大切だと思い全校での実践だったため、時間を確保することが難しかった。今回はテーマを絞り、道徳として実践したが、環境・貧困といったテーマになると、中学校のカリキュラムの中でどう時間を確保していくかが今後の課題である。			
備考	小規模校のため、秋の人権旬間として2週間設け、全校を対象に実践を行った。いろいろな先生に協力してもらい、授業を参観・実践してもらった。廊下に成果物を掲示し、意識を高めた。			

## 始めよう！グローバル時代のまちづくり・学級づくり

D  
23

実践場所	岐阜県	羽島市立中央小学校	実践者	西 薫
対 象	小学校6年生	時間数	5時間	
担当教科	小学校6年生	実践教科	総合的な学習	
ねらい	<p>(体験目標)多文化化する岐阜県の現状に気づき、誰もが大切にされるよりよい社会や学級をつくるために何が必要かを考える。</p> <p>(知識理解目標)地域には様々な国籍や文化をもった人々が存在することを知り、共に生きることの大切さを理解する。</p> <p>(態度目標)地域に存在する異なる文化をもつ人々の存在を認め、理解し、自分にできることを考えようとする。</p> <p>(技能目標)自分が調べた事実から問題点を見つけだしたり、根拠を明確にして自分なりの解決方法を追究したりすることができる。</p>			
実践内容	回	プログラム	備 考	
	1	<p>《岐阜県に住む外国人》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 岐阜県が、全国で4番目に、総人口における外国人登録者数の割合が高いことを知る。</li> <li>○ 岐阜県に多くの外国人が住んでいる理由を知る。</li> <li>○ 来日したばかりの外国人の人にとって不便なことは何か考え、グループで話し合いながら付せんをグルーピングする。(KJ法)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人登録者数の推移を見せ、岐阜県が多文化社会になりつつあることに気付かせる。</li> </ul>	
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事例から外国籍児童の直面する問題例を知り、自分なりの解決策を考え、グループの仲間と交流する</li> </ul> <p>○A:日本に来たのだから日本語のやり方に合わせればいい(日本語の学習、宗教による服装や食文化の違いなど)</p> <p>B:その外国人に合ったサポートを充実させるべき</p> <p>社会には両面の考え方があることを確認し、自分の立場を明らかにしてディベートをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心の居場所の確保、日本語指導、宗教など多様性に応じた様々な配慮が必要であること、それが十分でないことに気付かせる。</li> <li>・日本では当たり前の幸せも、多くの国で与えられていない現実を知る。</li> </ul>	
	3	<p>《子どもの権利条約について知ろう》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもの権利条約を読み、最も重要だと思う物を選び、グループの中で考えを交流する。</li> <li>○ グループで話し合い、ピラミッドランキングを作る。</li> <li>○ なぜ、それが重要だと感じたか、全体で交流す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの国に生まれても、誰もが同幸せになる権利があることに気付かせる。</li> </ul>	
	4	<p>《みんなにとって住み良い町、楽しい学級》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 町の中で見つけた、外国人の人にとって便利な点、不便な点を発表する。</li> <li>○ 岐阜県国際課の推進する多文化共生推進基本事業案、外国人住民向けの多言語情報誌などを見て、取り組みの経緯や努力を知る。</li> </ul> <p>○中央小6年1組バージョン「多文化共生プラン」の作成をする。 (学習の場、給食当番や委員会活動の場、休み時間、行事など、それぞれどんな工夫が必要だろうか。グループごとに場面を分けて分担する。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見つけてきたことをもとに、公共の場を、外国人の方の身になって見つめ直すようにする。</li> <li>・異なる文化や考え方を理解し受け入れる努力をすることで、共に気持ちよくらせる場所をつくることのできることを確認する。</li> </ul>	
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中央小6年 組バージョン「多文化共生プラン」の発表をする。</li> <li>○ 他グループと交流し、評価をする。</li> </ul>		
成 果	<p>初めて自分達の住む岐阜県の現状を知り、身近な外国人との「共生」について考え、「誰にとっても住みよい社会」を作るための解決策を考えることができた。活動を通して、「共生」に必要な「共感する力」「コミュニケーション能力」「正しい人権感覚」「批判的思考力」「問題意識・当事者意識」を育てることができた。</p>			
課 題	<p>日本語のサポートをするだけでなく、相手の母語や母文化を尊重する態度が必要であること、外国人だけでなく、高齢者や障がいをもった方など、あらゆる多様な人々との共生を意識することの必要性まで考えさせることができなかった。系統的なカリキュラムの開発が不可欠である。</p>			
備 考				

タイトル

## 少数派 vs 多数派 ～みんなと一緒に正しいはず？～

D  
24

実践場所	三重県	松阪市市民活動センター	実践者	西山 真友子
対象	一般		時間数	100分
担当教科	高等部		実践教科	—
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少数派、多数派の感覚が引き起こしている身近な問題や社会問題を知る。</li> <li>・少数派が差別や排除の対象とならないために、必要なことは何かを考える。</li> </ul>			
実践内容	回	プログラム	備考	
		<p><b>I. 【アイスブレイク】</b> 自己紹介:①名前 ②好きな食べ物 ③行ってみたい国について話す。</p> <p><b>II. 【あなたはどっち? YES それとも NO】</b> ①付せん2枚にそれぞれ「YES」と「NO」を書く。その後、ファシリテーターの質問に対し、一斉にどちらかのカードをテーブルの真ん中に出す。なぜそう思ったのかを発表しあう。 ②すべての質問終了後、自分が少数派だったときの気持ちを発表する。</p> <p><b>III. 【こんなときどうする?】</b> ごみ処理場建設問題について書かれたプリントを配布する。 ①個人で問題にどう対応すればよいか考える。 ②自分の意見を発表する。 ③グループの総意として、対応方法や解決策を考え、代表者が他のグループに向けてプレゼンを行う。</p> <p><b>IV. 【多数派は正しい! ?】</b> 茨木のり子氏の「わたしが一番きれいだったとき」の詩を鑑賞する。</p> <p><b>V. 【まとめ】</b> 今回のワークショップで感じたこと・学んだことをふりかえり、グループ内で発表する。</p>	<p>5, 6人のグループで実施。 発言する際に次の3点を心がけるように伝え、コミュニケーションの基本を知る。 ①<u>考える</u>…自分をふりかえる。 ②<u>伝える</u>…相手に心を開く。 ③<u>聴く</u>…相手を受け入れる。</p> <p>少数派だったときの自分や相手の気持ちに気づく。 多数決だけでは決められない問題の対方法を探る。</p> <p>戦時中の“多数派”について考える。</p>	
成果	自分の意見を言うときに、周囲に流されず、ありのままに言うためには、「安心して話せる雰囲気や場づくり」が大切だということを再認識できた。また、「みんなと一緒にだから正しい。」とは限らず、多様性を受け入れ共存していくことが豊かな社会へとつながることに気づきを得た。			
課題	ファシリテーターは口頭で説明するだけでなく、絵や写真を使ったり、また出された意見を黒板にすばやく書きだすなど、視覚的にも分かりやすいように工夫することで、聞きもらしがないよう参加者に対して配慮するとよい。			
備考				



タイトル

## 「差別に対して自分の認識・行動を変える」


D  
25

実践場所	愛知県	愛知県立千種高等学校	実践者	萩原 清美
対象	普通科 2年生		時間数	1時間(50分)
担当教科	外国語(英語)		実践教科	英語Ⅱ
ねらい	悲しい差別をなくすために「自分には何ができるか」を考える。			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1	<p>・アイスブレイキング(6人グループ) 「私のいいところ」「これからになりたい私」をテーマに自己紹介 「自分の趣味について語る」(簡単にその理由も述べる)(2人ペア) ねらい:生徒たちが自分の意見を自由に発言できる、ラポートな雰囲気 を構築する。ラポートな意見交換が効果的な話し合いを生むことに気 づかせる。</p> <p>・英語Ⅱの授業内容の振り返り(グループ) Passage to Freedomの内容を再確認し、感想を述べる。 ねらい:ユダヤ人たちが不当に迫害された悲しい歴史を振り返り、世界 には不当な差別が存在することを再確認させる。また杉原の決断・行 動について考えさせる。</p> <p>・価値観は多様(グループ) 様々な質問に対して、「Yes, I agree.」「I cannot decide.」「No, I disagree」 のどの立場であるかを考え、グループに発表。自分の立場の理由も簡 単に説明する。 最後の質問「もし自分が杉原なら、あの状況下でユダヤ人を救ったか」 ねらい:様々な価値観があること、また自分の差別に対する意識にも 気づかせる。さらには、差別解決に向けても様々な価値観と方策があ ることを気づかせる。</p> <p>・グループの意見を発表(グループ・クラス全体) 「価値観は多様」の活動で学んだこと、杉原の決断・行為についてグル ープで話し合ったことをクラス全体に簡単に発表する。 ねらい:グループの活動をクラス全体で共有し、様々な意見を集約す る。</p> <p>・アクションプラン作成(個人・グループ) アイスブレイキングでの「自分のいいところ」「これからになりたい私」を 見つめ直し、差別に対して「自分は」どのように取り組むことができるか を考え、発表する。(グループ) その後クラス全体での振り返り(クラス全体) ねらい:他の生徒の意見も参考にしながら、未来に向けてのアクション プランを自分なりに構築させる。</p>	<p>A4用紙に各ポイントにつ き2つ、自己紹介にはそ の内1つを用いる。 「Yes, but...」「Yes, and...」 活動</p> <p>Voyager English Course II Passage to Freedom 杉 原千畝の人生について</p> <p>ポストイット B紙(各質問項目に対 して、自分の立場を表した ポストイットを貼り付ける)</p> <p>自分が杉原ならの質問に 対しては時間をとり、B紙 に貼らせ、プレゼンの準 備とする。</p> <p>・B紙、スキットなど</p> <p>「自分のいいところ」「これ からなりたい私」のA4用 紙の裏面に、自分のアク ションプランを書かせる。</p>	
成果	授業進度の関係上、2月の中旬に実施予定			
課題				
備考	本校の生徒は自分なりの考えをもち、それを行動に移すバイタリティも持ち合わせており、この活動を通して学んだことを、自らの行動・活動として実践してくれると確信している。			

タイトル

## 「ちがひ」の違いから社会を見つめよう

D  
26

実践場所	愛知県	江南市立古知野中学校	実践者	松井 雪子
対象	中学3年生		時間数	2時間×2クラス
担当教科	国語		実践教科	道徳
ねらい	私たちを取り巻く社会の問題に気づき、世界の人権や平和、環境の守られる未来を築くための視点や解決しようとする意識をもつ。			
実践内容	回	プログラム		備考
	1 (1時間)	<p>①アイスブレイキング(4つのコーナー) 教師の読み上げる23の出来事(差)を問題だと思うか、「はい」「どちらかといえばはい」「いいえ」「どちらかといえばいいえ」の4種類のいずれかに意思表示をしながら意見交流をする。</p> <p>②「ちがひの違い」について考えよう。 23の質問にはそれぞれどんな違いがあるかグループ分けをする。</p> <p>③改善できる違い(差)について考えを深めよう。 グループ分けを全体で共有し、改善できる違い(差)について考え、意見を発表する。</p>		<p>※4人グループで行った後、全体交流出意見の出しやすい雰囲気を作る。</p> <p>※質問の中には公共ルール・マナー、文化、貧富の差等の違いを織り交ぜてある。</p> <p>※世界には違いがあふれているが、変えていかなければならない「違い」があることを理解する。</p>
2 (1時間)	<p>①アイスブレイキング(前時の感想交流) 誕生日が4月に近い順に4人グループで感想を述べ合う。</p> <p>②世界の真実の姿を知ろう。 資料「今、地球で起こっている30の真実」を読んで特に印象に残った項目の前に星印をつける。4人グループになって意見交流。</p> <p>③「明るい未来」について考えよう。 私たちにとっての「明るい未来」とはどんな未来かマッピングを使って明確にする。</p> <p>④「明るい未来」についての考えを広げよう。 ギャラリー形式で、それぞれのグループのマッピングを見て、考えを広げる。</p> <p>⑤自分にできることを考えてみよう。 個人での考えを発表する。</p>		 <p>※「なるほど」と思ったものに星印を書いていく。</p>	
成果	生徒は、この授業実践や力のある資料との出会いによって、世界で起きている諸問題を自分たちの未来への課題として当事者意識をもって捉え、解決策について真剣に考えることができるようになった。(マッピングや振り返りシートから)			
課題	今回は授業時数が限られていたためできなかったが、第2時で深めることのできた「自分にできること」の具体的な取組を実践するところまで、行えるようになった。			
備考	中学3年生では社会科の授業で人権について学習するため、その学びに合わせ、自分と身近な人との差から、世界へと視点を広げる機会にできるよう展開を工夫した。			

## 自らの命を自分で守ることができる

D  
27

実践場所	愛知県	名古屋市東築地小学校	実践者	横井 成美
対象	小学校5年生		時間数	20時間
担当教科	5年2組		実践教科	総合科
ねらい	巨大地震の際、起こりうる様々な想定に基づき適切な行動を取り自らの命を守ることができる子供を育てる。また、震災後であっても地域に愛着をもち続け復興に関わろうとする子供を育てる。			
実践内容	回	プログラム		備考
	1 5時間	<b>【知る】</b> ・名古屋市防災センターで過去に起きた地震や津波の大きさを知り、震災施設で実際に体験して、恐ろしさを知る。 ・「釜石の奇跡」の事例から震災時の釜石の子供たちの行動を知る。 ・宮城県南三陸町の小学校からの震災時の状況を知らせてくれたビデオレターから震災直後の様子を知る。 ・国語「百年後のふるさとを考える」から巨大津波を予想し、私財を投げ打って震災後堤防作りに尽力を尽くした人物がいること知る。		・ユネスコスクールの交流で知り合った宮城県の学校にビデオレターを依頼した。 ・釜石の奇跡については、群馬大学の片山教授の講演を聴きに行き、NHKで放送されたビデオをいただいた。
	2 3時間	<b>【考える】</b> ・学区に災害が起こったらどのような行動を取るべきかを考え、そこから出てきた考えを基に、学区の危険場所・安全な場所探しをして、それを基に学区の防災マップを作る。 ・防災マップを見ながら避難経路を各自で考える。		
	3 4時間	<b>【高め合う】</b> ・各自の考えた避難経路を基に学級でよりよい避難について話し合う。 ・学級で作った防災マップを見ながら家庭で話し合う		・学習発表会では、国語で学習した百年後のふるさとを考えるの基になった「稲村の火」に取り組み、被災者の気持ちになってみる。
	4 8時間	<b>【広める・伝える】</b> ・家庭で話し合った避難のついて学級で報告し合い、それについてさらに話し合った事をB紙にまとめ、廊下に掲示し、さらに家庭に報告する。 ・学習発表会で、地域の方や他の学年の児童に防災について広める。 ・自分の命は自分で守る事について家族に手紙を書く。		
成果	経験した事もない大災害が起こることを想定しながら、危機感を感じ、自分たちでどうにかしなくてはいけないと考える様になった。子供たちは家族・地域に働きかけるまでになっている			
課題	子供たちは「地域で避難訓練をしたい」という考えにまで危機感が高まっている。しかし、子供たちの力は地域を動かすまでには至っていない。子供の気持ちを現実化できる様にする方法を模索していくのが今後の課題となる。			
備考	災害教育は、避難と復興の両極面から考えていかなければならない。復興については、子供自身の力ではどうにもならない。そこでまず、地域に愛着をもち、災害後であっても地域にとどまりたいという子供に育てたい。そこから「復興していこうとする力」へつながっていくと考える。			

タイトル

## アイデアを共有しよう 受け入れよう。

E  
28

実践場所	静岡県	県立清水特別支援学校	実践者	池田 美奈子
対象	教職員(本校中学部職員)		時間数	(1回)1時間 (5月～12月まで) (学部研修の時間は月に2回実施している)
担当教科	中学部2年生担任・授業研修課担当	実践教科	中学部(職員の研修の時間)	
ねらい	授業づくりの話し合いの中で、さまざまな考えを受け入れたり、自分から意見を言ったりすることを通して、職員が授業について考え、よりよい授業にしていく。(Team Teaching の授業づくり)			
実践内容	回(分)	プログラム		備考
	5分	・今回の研修の目的の共有		*座る配置は弧を描くように座る。
	10分	・授業担当者より「本単元のねらい(願い)」 「今回、意見をもらいたい点」を説明  (論点を絞る) ↓ ・今回の研修の課題の共有		グループワーク * 意見の出し合い方は、以下の2つのどちらかを用いた
	20～30分	・グループワークで意見を出し合う (意図的にグループワークをしないときはアイスブレイキングでグループ分けをした)  ・各グループごとに出た意見を紹介 (時には、回覧式で職員が見て回る。「いいね!」と思うアイデアには☆印をつける こともした)		1. ブレインストーミングで意見を書いていく。  2. 付せんにメモ書きしたものを、カテゴリー化する
5分	・授業者より  ・研修のまとめ  * 研究授業期間は、教室の外に付せんを用意し、「よかった支援」と「こうするといいよ、等のアドバイス」と見出しをつけ、メモ書きしたものを色分けし、視覚化した。授業者はそれを見て次時の授業の参考になるようにした。		可動式ホワイトボード(グループ数分) 付せん  KJ法 (カテゴリー化)	
成果	学んだファシリテーションスキルを使って学部研修を進めた。 ・ポストイットの活用、グループ分けなどの工夫をしたことによって、職員一人ひとりが必ず意見を言うようになった。(何でも言える雰囲気) ・「今回の研修の目的」などを伝えてから行ったことで、職員が自分のことと捉えて研修に臨むようになった。			
課題	・1年を通して計画的に進めていく必要がある。 ・研修の時間内で終わることができるように、時間配分をよく考えて進めていくことが大切である。(ファシリテーションスキル)			
備考	*今回の実践は、職員としました。自分が担任をしているクラス内では、日常生活の指導の中で「友達のいいところさがし」(自分とちがってもいい・違いを楽しむ ←昨年度のブラジルの実践で行ったことをベースに)を取り入れて友達との関わり合い、助け合いを大事にするようにしている。			

## 多様な文化を楽しもう～All different, all just right～

E  
29

実践場所	三重県	県立木本高等学校	実践者	川上 真由子
対象	高校1年生		時間数	2時間(45分×2)
担当教科	英語		実践教科	OC 英語 I
ねらい	異文化を知ると同時に、自分の文化についても改めて考え、それらを肯定的に捉えてみる。そして今後自分が異文化に接したときの対応やコミュニケーションについて考える。			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1限目	0. アイスブレイキング 世界のクリスマスについてクイズ 1. グループ対抗異文化クイズ  2. シチュエーションクイズ ALT と JTE との英語の会話を聞いて、文化的な違いから生じるコミュニケーション上の誤解について考える。  3. スクリプトを見ながらロールプレイ  4. どう感じたか意見をシェア なぜそのような出来事が起こったのか考えてみる。  5. どんなスクリプトにしたらコミュニケーションが成立するか考えてみよう。 グループで発表	パワーポイント  パワーポイント    紙、ペン * 役割分担 (司会、タイムキーパー、書記、発表者等を決める。)	
	2限目	1.アイスブレイキング 世界の挨拶でグループ分け  2. ここが変だよ日本人？！ 日本の常識＝世界の非常識？シート を読み、日本の常識にたいして、なぜびっくりするのか、びっくりする国や地域では、どのような方法がそこでの常識なのか考え、発表する。  3. 自分の文化が否定されたらどう感じるか、振り返りシートに書く。  4. 異文化と出会った時、どんな事を大切にすればいいだろうか。 グループで思いっくまに書いてみる。グループでポストイットを貼ってシェア。全体でシェア。  5. まとめ ムービー ～外国の人から見た日本～ 6. 感想を書く	世界の挨拶カード  * 役割分担  振り返りシート  ポストイット、ペン  ムービー 感想用紙	
成果	様々な文化の違いに気づくことが出来、違いに対してポジティブなイメージを持つ事が出来た。他の文化をもっと知りたい、という姿勢を作る事が出来た。			
課題	生徒を少し誘導しすぎてしまう所があったので、もう少し生徒に任せて考える時間があってもよかったかもしれない。			
備考	最後の全体シェアの時間が不足、後日プリントにまとめたものを配付した。 参考文献:「異文化コミュニケーションワークブック」、「外国人から見たニッポン」			

# 世界の中の『自分』を見つめよう！

E  
30

実践場所	静岡県	県立清水特別支援学校	実践者	鈴木雅義
対象	高等部 3年生		時間数	4時間
担当教科	特別支援学校 高等部3年担任	実践教科	総合的な学習の時間	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良さを知り、友達の良さを知る。・自分の住んでいる清水・日本について知る。</li> <li>・世界の中に自分がいることに気付く。・自分・アナタ・みんなを肯定的にとらえる。</li> </ul>			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	<p>◎みんな同じでみんないい。みんな違ってもみんないい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4～5人のグループを作り、グループ内で共通する要素を見つけたり、違う要素を見つけたりする。</li> </ul> <p>◎自分のいいところ発見！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のいいところをA4用紙に3つ書き出す。書いた後、みんなで友達のいいところに○をつける。他にいいところがあったら、さらに付け加える。最後に友達からの○や、付け加えられた言葉を見ての感想を発表する。(どんな気持ちになったか)</li> </ul>		<p><u>ブレインストーミング</u></p> <p>同じ、違うを5分以内で探す。</p> <p><u>ギャラリー方式</u></p> <p>記入した紙を机に置き、順番に○を付けたり、付け加えたりする。</p>
	2	<p>◎クラスのいいところ発見！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラス(3年3組、3年4組)に分かれて、5人のグループを作る。クラスの良いところを模造紙に書き出す。</li> <li>・自分たちのクラスはいいところがたくさんあったことに気付く。</li> </ul> <p>◎清水のいいところ発見！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの住んでいる清水にはどんなものがあるかグループ内で考え、付せん紙に書く。出てきた言葉を分類し、模造紙にまとめる。分類されたら清水の街はどんな街なのかタイトルをつける。</li> </ul>		<p><u>派生図</u></p> <p>仲間が書いた言葉に付け足していく。</p> <p><u>KJ法</u></p> <p>清水についてどんなことでもいいから書けるようにする。</p>
	3	<p>◎WORLD TIME</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の国旗、どこの国？好きな国旗に色を付けてみよう。国旗から世界に目が向けられるようにする。</li> <li>・日本についてどんだけ知ってる？</li> </ul> <p>日本について知っていることをA4用紙に書き出す。日本について出てきたものをまとめる。</p>		<p><u>クイズ</u></p> <p><u>リスト作り</u></p>
	4	<p>◎LAOS TIME</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LAOSってどんな国？①LAOSを写真やモノから紹介。(説明なし)</li> <li>・LAOSってどんな国？②写真と話</li> </ul> <p>考えていたイメージと同じ、違うをA4用紙にまとめる。</p>		<p><u>ハンズオン</u></p> <p><u>フォトランゲージ</u></p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの話し合いがうまくいかないことが多い生徒たちだが、友達の意見を聞くルール「否定しないで受容する」や、題材が身近なことであったために意見をたくさん出す姿を見ることができた。</li> <li>・自分、クラス等、身近な良いところを多く確認できたので、「俺ってこんないいところあったんだ。」「うちのクラスっていいところ多いね」等の言葉を聞くことができ、見つめ直すことができた。</li> </ul>			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を取り巻く環境が大きくなればなるほど生徒自身にとってほんやりとしてきたものになってしまったので、時間数を確保し、ゆっくり進めていくことが課題となった。</li> <li>・世界、LAOSについて日本と同じところ、違うところ等をもっと掘り下げて提示し生徒に残るようにしたい。</li> <li>・LAOSにももう少し触れさせることができるようにしたかった。</li> </ul>			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「異文化を知る」という点から、沖縄修学旅行につなげられる単元を設定した。</li> </ul>			

タイトル

## みんなちがって みんないい～異文化理解・ガーナから教室へ～

E  
31

実践場所	愛知県	名古屋市立原小学校	実践者	坪井 里恵
対象	小学校1年生		時間数	12時間
担当教科	全教科		実践教科	生活科, 道徳, 特別活動
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーナと日本の文化の違いを楽しみながら理解する。</li> <li>・「違い」を良しと考えることができる。</li> <li>・学級の友達と自分の「同じところ」・「違うところ」を理解し、「みんなちがってみんないい」と考えることができる。</li> </ul>			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	<b>「今日から私はガーナ博士！！もっと、もっとガーナを知りたい」</b> ○ 衣・食・住など、ガーナに関する3択クイズを通して、ガーナに興味・関心をもつ。 ○ ガーナクイズを通して、気付いた事や疑問を学級で共有する。		パワーポイント ブレーンストーミング
	2	<b>「そうだ！！ガーナへ行こう」</b> ○ 「ガーナすごろく」遊びを通して、前時に抱いた疑問を解消したり、ガーナの文化について理解したりする。		すごろく ガーナBOX
	3	<b>「ガーナの台所へ おじゃまします！！」</b> ○ 「ガーナ食べ物クイズ」を通して、ガーナの食べ物に興味をもつ。 ○ 「フーフー」作りをして、ガーナの食べ物に親しみをもつ。 ○ 食文化が違うが「それも良し」と考える。 →ミーナちゃんへの手紙		パワーポイント フーフーミックス
	4	<b>他者理解「みんなちがって みんないい」</b> ○ フォトライブラリー ○ 学級の中で友達と同じところ・ちがうところ探しをする。 ○ 金子みすず「みんなちがってみんないい」を音読する。		フォトランゲージ 対比表
	5	<b>想いを伝えよう「大切な友達へ、大切な自分へ」</b> ○ 世界の平和, 学級の平和を考え, 学級(友達)のためにできることを考える。学級のみんなへの手紙を書く。 ○ 遠くはなれたガーナの友達へ、「みんなちがってみんないい」のメッセージをおくる。		手紙
成果	児童はガーナのことが大好きになり、ガーナと日本の文化の違いを肯定的に理解することができた。自分と学級の友達との違いを理解し、「みんなちがって みんないい」と思えるようになり、学級の雰囲気はよくなった。			
課題	児童は、「ガーナについてもっと知りたい。」という気持ちをもっていたが、時間数が確保できず、児童が抱いたガーナ文化に対する疑問を全て解消することができなかった。今後も実践を続けていきたい。			
備考				

タイトル

## ともだち はっけん！

E  
32

実践場所	愛知県	名古屋市立西山小学校	実践者	古屋幸子
対象	小学1年生		時間数	7時間
担当教科	全教科		実践教科	国語・音楽・学活・読書タイム
ねらい	世界にはたくさんの国があり、様々な文化がある。友だちとも、それぞれに考えが同じところも違うところもある。多様なものを受け入れ、お互いの違いを肯定的に認め合うことができるようにする。			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	<b>せかいはひろい？</b> (国語)おはなしきいて・・夏休みの思い出のスピーチ (学活)知っているくに いってみよう (音楽)ひのまる、せかいじゅうのこどもたち、ちいさなせかい (読書タイム)読み聞かせ「アフリカないしょだけどほんとだよ」		地球儀
	2	<b>ちきゅうぎではっけん</b> (学活)ガーナはどこ？ (国語)カタカナさがし～地球儀から		
	3	<b>どんなくにかな～ガーナ</b> 文化や生活の様子の違いに気づき、他国の文化と肯定的に出会うことができる。 (学活)フォトランゲージ		フォトランゲージ用の写真
	4	<b>ガーナクイズにちょうせん</b> (学活)ガーナおみやげクイズ (学活)ガーナしゃしんでクイズ		ガーナのおみやげ
	5	<b>こんなときどうする？！～せかいのあいさつゲーム</b> ・言葉もゼスチャーも違う人たちが出会ったら、どんなことが起こるかゼスチャーゲーム・シミュレーションを通して考えさせる。		
	6	<b>せかいのひとびと</b> (国語・図書の時間)「せかいのひとびと」読み聞かせ (読書タイム)様々なアフリカ関連の絵本の紹介		「せかいのひとびと」 その他書籍
	7	<b>ともだちはっけん</b> (学活)ともだちはっけん ・アンケートを使って教室の中の多様性に気づく。友だちとの共通するところや違いを楽しむことができる。 ・クラスの中での多様性に気づき、お互いの違いを楽しみ、お互いを認め合えるようにする。		
成果	いろいろな教科を関連づけながら学習に取り組み、子どもたちも楽しみながら活動をする事ができた。世界の人々の暮らしぶりや生活の様子との、違いや共通点を探すのはおもしろい。また、教室で過ごす友達とも違いや共通点があることに気づくことができた。			
課題	書く力や、意見を共有する力が未熟で、全体に向けて発表したりまとめたりすることができにくい面もあった。コミュニケーションの能力を向上させるためにも、今後もいろいろな機会を設け、他者と関わり、意見が言えるようにしていきたい。			
備考	ガーナと関わらせた授業を、意識して通常の授業の中に組み込んだので、授業時数として厳密に数えることができない。			



タイトル

## 遠くて近い世界の国々に出かけよう！


E  
33

実践場所	愛知県	知立市立知立南中学校	実践者	門間 美香
対象	中学校1年生		時間数	12時間
担当教科	社会科		実践教科	社会科(地理)
ねらい	フランス・中国・アメリカについて学習することを通して、様々な価値観や考え方があることに気づく。学びを通し、外国籍の多い本校であるからこそ、〇〇人だからというステレオタイプではなく、その人自身を認めるような価値観をもてるよう支援する。			
実践内容	回	プログラム	備考	
	3	世界との結びつきを強めるフランス	一斉授業で行う	
	5	世界一の人口をもつ中国 生徒がそれぞれ、興味をもったテーマについて調べ学習を行った。図書室の本だけでなく、知立市図書館から借りた100冊ほどの本のなかから、興味をもったテーマについて調べ、画用紙にまとめた。まとめたものは小グループ(4人)でグループ内発表し、興味をそそられる発表をした生徒を各グループから一人ずつ選出した。同じグループの友達に選ばれた生徒は、クラス全体でもう一度、発表を行った。	調べ学習 自分の調べたい情報について図書を使って調べる方法を学ぶ 小グループで発表することで発表に対する自信をつける	
	1	なぞの国Xを探れ！ ボストンのチャイナタウンの写真、イタリア人街の祭りの様子、ケネディ大統領の成果の写真の小グループごとに、どこの国かを考えた。→ アメリカが多民族の国であることに気づく	フォトランゲージ 写真から情報を読み取り、相談して一つの答えを導き出す	
	2	大規模な農業について調べよう、巨大な工業力について調べよう、世界中にあるアメリカ軍基地	作業をしながらの、一斉授業	
	1	レヌカの学びを通して… ネパール人のレヌカさんが日本に来た際に感じたことと、ネパールで生活していたときに感じたことについてのカードを分類していくゲームを行った。 ゲームに取り組むうちに、レヌカさんではなくネパール人や日本人について考えてしまっている自分に気づく。 → 国としての考え方も大切だが、個人も大切にすることに気づく	グループ作業を通し、協力して一つの答えを導く グループごとに発表を行う	
成果	様々な視点から、世界について学ぶことを通して、価値観が1つではないことに気づけた生徒が多かった。レヌカの学びでは、〇〇人という風に考えるのではなく、その人をしっかり見ないといけないと思ったという感想もあり、ねらいが伝わったと感じた。			
課題	レヌカの学びがこの単元において大きなインパクトとなったと思う。しかし、本校の様子からブラジルと日本の結びつきをもっと強く感じられるような教材があれば、より深い体験として生徒が感じられたのではないかと思う。今後そのような教材を作っていけるよう努力したい。			
備考	レヌカの学びは開発教育協会(DEAR)のホームページよりダウンロード可能			

タイトル

# ボリビアってどんな国？

F  
34

実践場所	静岡県	富士市立須津中学校	実践者	大橋 美保
対象	中学2年生		時間数	1時間
担当教科	英語		実践教科	学活
ねらい	1. 国の名前や標高から想像する国の様子と、実際の様子の違いに気づかせる。 2. 外国のことに関心を持たせる。			
実践内容	回	プログラム		備考
	1回	<p>ボリビアの基本情報を伝える。</p>  <p>発問 南米大陸にあるボリビアの首都ラパスは富士山の頂上と同じくらいの標高にあります。人々はどんな生活をしているだろうか？想像して絵や文字で表してみよう。</p> <p>4人グループで話し合いをしながら、想像する街の様子を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空気が薄い</li> <li>・草木が生えていない</li> <li>・日差しが強い</li> <li>・洞窟の中で暮らしている</li> <li>・岩を積んで家を作っている</li> <li>・肌が黒い</li> </ul> <p>実際にどんな生活をしているか見てみよう。 写真をクイズを出しながら説明する。</p> <p>想像していた街の様子と実際の様子を見て、どのようなことを感じましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・想像していた総ストは違っていた</li> <li>・ビルがたくさんあって、都会って感じがした</li> <li>・男性の服装は日本とあまり変わらなかった。</li> </ul>		パワーポイントでボリビアの位置と地形など、基本情報を紹介する。
成果	標高の高さや、後進国という言葉のイメージから想像したものと、実際の様子が異なることに気づかせることができた。また、自分が知らない国について「知りたい」「行ってみたい」という関心を持たせることができた。			
課題	世界の様々な国で生活している子供たちの様子についてさらに関心を高め、知識を得ることで、今後の自分自身の生き方についても考えを深めてもらうための、授業を継続して行っていくたい。			
備考	第2弾「子供の権利条約」を元に、世界の子供たちの様子について学習した。 第3弾「防災教育」として、東日本大震災でのボランティア活動で見聞きしたことを紹介しながら、自分たちの地域の現状を知る活動を進行中。			

タイトル

## We're All in This Together!!

F  
35

実践場所	長野県	千曲市立埴生中学校	実践者	小林 実季
対象	中学2年生		時間数	4時間
担当教科	英語	実践教科	総合的な学習の時間	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な人、多様な国と肯定的に出あう。</li> <li>・人の同一性、多様性を理解する。</li> <li>・多様な私たちが国や人とよりよい関係を築くためにできることを考える。</li> </ul>			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	<b>「ラオスと肯定的に出あう」</b> ・研修で得た資料写真を使いながらパワーポイントでクイズを行い、グループごとに回答してもらう。		・パワーポイント
	2	<b>「多様性の中の同一性」</b> ① 「わたしの良いところ、なりたいわたし」 「幸せな時、悲しい時、人からされて嫌なこと」 「日本の誇りに思うこと、残念に思うこと」 それぞれの対比表を作り、日本のことについてはグループで考えて発表。 ・ラオス人に聞きました！ 「ラオスの誇りは？」生徒の予想→ラオス人の回答		・対比表
	3	② What do you treasure? ・それぞれが自分の大切なものを発表する。 ・ラオスの子どもたちの大切なものは何か、予想する。 ・ラオスの子どもたちの大切なものをフォトランゲージで知る。		・フォトランゲージ
	4	③ My Dream ・英語の時間に英作文でお互いの夢を知った後、ラオスの子どもの夢をフォトランゲージで知る。  <b>「多様な私たちが国や人とよりよい関係を築くためにできることは？」</b> ・グループで考え、リストを作り発表をする。		・フォトランゲージ
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よく知らないラオスのことを中心に行ったが、生徒は前向きに興味を持ってくれた。</li> <li>・夢や宝物について知ると、「違っていても面白い」という意見や、「同じ夢があって驚いた」などの感想もあったため、違いの良さや、多様性の中にも同一性があることが感じてもらった。</li> </ul>			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの活動は楽しくできるのだが、知識や経験が少ないため、学習をより深めることは難しかった。事前に学習しておくことはまだまだあると思った。</li> </ul>			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・My Dreamについてはたまたま英語の授業で行ったものを使ったが、英語でなくてもそれぞれ簡単に発表できる状態であれば同じ活動ができる。</li> </ul>			

タイトル

# そうだ！ガーナへ行こう！世界を楽しもう！

F  
36

実践場所	愛知県	名古屋市立愛知小学校	実践者	佐藤 大喜
対象	特別支援学級5・6年		時間数	9時間
担当教科	特別支援学級		実践教科	生活単元
ねらい	○ 日本と外国(自分の住んでいる国以外の国)があることを知る。 ○ 食や音楽を通して、異文化を楽しく体験することができる。			
実践内容	回	プログラム		備考
	1・2	<b>「ぼくたち・わたしたちの住んでいる国～日本～」</b> ・ 普段の自分自身の生活や身の回りの環境を振り返り、自分の住んでいる国(日本)について考える。 ・ 地球儀や地図を見て、日本を地理的に理解する。 ・ 日本の国技である「相撲」に触れることで、日本の文化を感じとることができる。		安美錦関(力士)
	3・4	<b>「外国へ行ってみよう！」</b> ・ 飛行機に乗って、外国に行くということを擬似体験する。 ・ 一学期に出会ったメキシコのビジャファン先生との思い出を振り返る。		飛行機模型
	5・6	<b>「そうだ！ガーナへ行こう！」</b> ・ 飛行機の搭乗体験をしながらガーナを訪れ、ガーナの文化を知る。 ・ ガーナに関するクイズを解いたり、写真を見たりしながら、ガーナの文化を楽しく体験する。 ・ ガーナのチョコレートと日本のチョコレートを食べ比べて、「違い」を感じとる。		ガーナクイズ ガーナチョコレート
	7・8	<b>「ガーナの人になってみよう！」</b> ・ 調理実習で、ガーナの主食である、フーフーやバンクーを実際に作る体験をする。 ・ ガーナの民族衣装を着て、ガーナの文化を体験する。		フーフーMix バンクーMix ガーナの衣装
	9	<b>「“AKWAABA”の心でもてなそう」</b> ・ ガーナの人になりきって、学校の先生を教室に招待する。 ・ 来てくれた先生たちに、フーフーやバンクーといったガーナの料理を出して、もてなす。		ガーナの料理
成果	授業後には、「ガーナへ行ってみよう！」とすべての子どもが言っていた。ガーナの文化を楽しく体験することができたので、とても良かった。自分の事以外にあまり興味をもたなかった子どもが、異文化を知ろうとしたり、肯定的に受け入れたいと思う態度が育ってきたように思う。			
課題	ガーナに興味をもつことができたのは、子どもたちにとって、「担任の先生が行ったから」という理由が一番大きいように思う。今後もっと子どもたちの視野を広げられるように、子どもたちが興味をもてるような工夫をもっとすべきであると感じた。			
備考				

タイトル

## 日本-ラオス-世界 食は万里を越える！！

F  
37

実践場所	愛知県	名古屋市立愛知小学校	実践者	田中 隆晃
対象	小学5年生		時間数	9時間
担当教科	小学校		実践教科	社会・総合的な学習の時間
ねらい	日本とラオスの食を通して、共通点や相違点に気付き、世界の食に興味をもつことができる。 日本とラオスの食の特徴やよさに気付き、肯定的にとらえることができる。			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	<b>ラオスの食との出会い</b> ・「あなたの好きな食べ物は？」 ・ラオスの国の紹介をする。 ・ラオスの食カードを配り、レシピを想像する。 ・ラオスの食について紹介する。体験したことを伝える。		分類 ・ラオス紹介のためのパネルのP.P ・ラオスの食カード
	2～4	<b>食にSHOCK！！(食にショック！！)</b> ・ラオスの米を体験する。 → 日本米との比較をする。 ・ラオスの「食」を体験する。 → 日本の食との比較をする。 ・ワークシートの「世界」の料理に着目させる。 ・それぞれの選んだ「世界の食」について調べる。 ・「米」を中心に変身したもの「派生図」をつくる。		ラオスの食材 ・ラオスのもち米 ・ライスペーパー ・めん(米粉麺) ・インスタント麺 派生図
	5～6	<b>もっと深く知ろう！</b> ・観点を絞って、調べ学習を行う。 (食材・レシピ・調理器具・食に関するおもしろいネタ)		資料の活用 ・インターネット ・図鑑 ・新聞
	7～8	<b>世界の食を紹介しよう！</b> ・調べたいことを全体の場で発表する ・調べた料理を世界地図に貼ることで、自分たちの生活と、世界の食がつながりあっていることに気付かせる。		・世界地図
	9	<b>食を楽しもう！！</b> ・食を通して、自分たちの生活を見直す話し合いを行う。		
成果	・日本とラオスの食を通して、共通点や相違点に気付き、世界の食に興味をもつことができた。 ・日本とラオスの食の特徴やよさに気付き、肯定的にとらえることができた。			
課題	・日本とラオスの違いを多く取り上げてしまい、共通点があまり生まれてこなかった。 ・ラオスの「食」への子どもたちの考えは変容したが、さらに深く追究しようという意欲を向上させる必要があった。			
備考	・調べ学習の時間を十分にとることができると、さらによりよい「食」の発表になったと感じた。 ・実際に体験をともなった学習を行うことで、関心や意欲を高めることができた。ただし、食の体験は、ラオス以外の国についても、同様の実践を行うことができるのではないかと思った。			

# 知り隊！学び隊！～われら異文化調査隊！～

**F**  
**38**

実践場所	愛知県	あま市立甚目寺小学校	実践者	中西 浩之	
対象	小学6年生		時間数	7時間	
担当教科	小学6年生担任		実践教科	総合的な学習の時間	
ねらい	1. 人の共通性・多様性に気づき、世界の国々に興味をもつことができる。 2. 異文化(ラオスの文化)に触れ、想像力と創造力を培うことができる。 3. どんな国にも誇りや特有の課題があることに気づき、自国を見つめ直すことができる。				
実践内容	回	プログラム		備考	
	1	<b>ふるさと日本～われら異文化調査隊～結団！</b> <b>・「ラオスって……？！イメージをふくらませよう」</b> ① どこにあると思う？ ② 国旗はどれだと思う？ ③ どんな国かイメージをどんどん出そう！		PowerPoint 資料 クイズ 掛軸世界地図  プレインストーミング	
	2	<b>異文化調査隊発進！！</b> <b>・「Dear Laos！」</b> ○ ラオスの人たちに素朴な疑問！質問しよう！ ○ 日本国6年生、等身大のわれらの夢！伝えよう！ ○ これが Japanese Culture！紹介しよう！		プレインストーミング グループワーク  日本の物品	
	3	○ Find the link！世界はキミにつながっている。 <b>・「Dreams Come True！」</b> ① 夢はその国の社会を映す。イメージしよう！ ② 同じ地球人。違う国の人。比較しよう！ ③ なぜ違う……。考えよう！		JICA ビデオ  PowerPoint 資料 フォトランゲージ Dream photo 一覧表 対比表 プレインストーミング	
	4	<b>・「サバイディー！ラオス人になりきって！」</b> ① 想像力をふくらませよう！ラオスの、これな～んだ？！ ② スワイカンの精神で！！やってみよう！ <b>・「Deep Dive！コーイ マック ラーオ！」</b> ① Let's go！ラオスを深く知ろう！ ② 違いを受け入れて楽しく学ぼう！もっと詳しくなろう！		PowerPoint 資料 フォトランゲージ ラオスの物品 ロールプレイング You Tube 資料 タマリンドキャンディー クイズ	
	5・6	<b>・「Let's play ラオスポーツ！」</b> ① われらのオリジナルセパタクローを創造しよう！ ② ニューススポーツ日本到来！ペタンク！		セパタクロー ペタンク KJ法 リストアップ	
	7	<b>・「ピーノーカン！ラオスの誇り、そして日本の誇り。」</b> ① そんなバナナ？！ ② 見つめ直そう！日本、そして私たちのふるさと。		ODOP movie&photo バナナカード バナナ繊維&靴 フローチャート プレインストーミング	
	☆	↓ 本校のESDの取組～ふるさと甚目寺～われら歴史・文化調査隊～へと続く。			
	成果	本校のESDの取り組みに国際理解教育・開発教育として組み込み、夏前より授業を展開でき、ラオスからの発信だけでなく、子どもたちからラオスへの発信もできた。ラオス展は盛況。自主勉強ノートにはラオスや他の国について新たに興味をもち自主的に調べる児童が。最終的に地域を見つめ直すことにつなげ、単発で終わることなく継続できた。			
課題	ラオス以外の国も訪ね、もっと見聞を広め、引き出しの多い指導者になりたいと考える。小学校では6年生の社会科3学期の単元で世界について取り上げている。一部内容も重複するので社会科としても扱えるし、実施時期を考える必要がある。ラオス人の人材バンクなどあって活用できれば、ぜひ現地の人にも話をさせていただきたい。				
備考	活動内容には食べる・運動する、と五感を使った学びが取り入れてある。もちろん衛生面・けがの面からも安全に細心の注意をはらうべきである。保護者や市長、市教育長、そして全校の児童に発信することができよかった。				

タイトル

# 出会おう！！私たちの仲間

F  
39

実践場所	愛知県	県立みあい養護学校	実践者	星野 百合子
対象	特別支援学校 高等部1年生	時間数	20時間	
担当教科	家庭科	実践教科	総合的な学習の時間	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の食文化(岡崎伝統の八丁味噌)から、自分たちの住む地域を知ろう。</li> <li>・ラオス(教師海外研修)、ロシア(ロシア人との国際交流)など世界の文化を調べ、地域の文化との相違性・同一性に気付き、肯定的に出会おう。</li> <li>・ラオスのような発展途上国やロシアのような多宗教国が世界にはたくさんあること、それらの国々がお互いに支え合っている活動があることを知り、周りの人との関わり方を見直す。</li> </ul>			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1~4	地域の文化と出会う 「自分たちが暮らす町の伝統料理を考えよう。」	・自分が居る位置を確認し、八丁味噌の文化を改めて知る。	
	5~6	岡崎ランチを作ってみよう。(調理実習)	・生徒が考えた「八丁味噌ピザ」の調理実習。	
	7	同じお米国、ラオスってどんな国？	・ラオスの食文化について、クイズに答えながら異国の文化と肯定的に出会う。	
	8	ラオスのスポーツ体験(セパタクロウ)		
	9	ラオスの楽器体験(ケーンと木琴)		
	10	ラオスの踊り体験(ラオダンス)		
	11~14	観光大使！！世界(ラオス班、ロシア班、スペイン班)の文化を紹介するCMを作ろう	・文化(食、音楽、踊り、衣装、観光名所)をCMにして紹介する。他班のCMを肯定的に受け入れよう。	
	15	出合いの3ヶ条(違いを肯定的に受け入れるには何が必要かを考えて3ヶ条にまとめる。)		
	16	ロシアのハツワさんとの交流準備	・実際にロシア人(ハツワさん)に出会いロシアの暮らしを知り、伝統料理の作り方を教えてもらう。	
17	国際交流 ハツワさんにロシアの伝統料理ボルシチ作りを覚えてもらおう	・話してみよう、質問しよう。		
18~19	ハツワさんとの出合いを振り返って			
20	世界の「輪」の作り方、地域の「和」の広げ方をまとめ、発表			
成果	世界の国々の文化に目を向けて調べ学習をした。日本では当たり前のようにしていたことや、食べていた食材が、他国では食べられないことに気付く生徒や、初めて見る世界の楽器や踊りに驚く生徒もいた。生徒が「ちがいが」を肯定的に受けとり友達の意見にも「そうだね。」と共感できる生徒が増えた。			
課題	本授業では生徒が教師の導きで、自分の居る場所や他の世界に目を向けた。分からないことは図書館やパソコンを活用して調べるようにした。後期の学習では、疑問に思ったことを生徒自身で考え調べられるようにしたい。			
備考	後期の総合的な学習の時間は1・2月に行い、ハツワさんとロシアの踊りや歌や遊びを中心に文化交流会を予定している。			

タイトル

## アジア day

F  
40

実践場所	愛知県	KTC中央高等学院	実践者	近藤 朝子
対象	高校1～3年生(選択)		時間数	2時間
担当教科	英語		実践教科	異文化理解
ねらい	異文化に触れ、海外をより身近に感じること。異文化(自分の既存の価値観とは異なるもの)に触れることで、自らの価値観に気づくこと。			
実践内容	回	プログラム		備考
		9:30～11:30 ① この国はどこでしょう?クイズ(写真を見せて) ② アジアの民族衣装を着てみよう (カンボジア、ラオス、タイ、マレーシア、フィリピン) ③ 自分が着た民族衣装の国について調べてみよう グループでのワーク ④ 発表		
成果	これまで触れたことのなかった国への理解が深まった。			
課題	調べ学習を行う時間が足りず、発表時間が十分に取れなかったこと。 調べる際の資料を用意していたが、事前に告知し、本人たちにも用意させればよかった。			
備考				



タイトル

## 異文化理解、そして国際交流へ

F  
41

実践場所	愛知県	南陽高等学校	実践者	阿部 麻依子
対象	高校1年生		時間数	3時間
担当教科	英語	実践教科	LT	
ねらい	<p>・ワークショップを行い海外の文化に触れることで、異文化を理解する姿勢を育て、自国の文化についても認識を深める。</p> <p>・留学生との交流を通して、外国の方を身近に感じ、世界に興味をもたせる。</p>			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1	<p><b>世界の学生はどんな生活をしている？</b></p> <p>&lt;&lt;フォトランゲージ&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各グループに写真を配布する。(1グループ7枚)</li> <li>写真の人物と自分たちに共通すること、異なることを対比表に書かせる。</li> <li>写真についての解説を配布し、読ませる。</li> <li>読んだ後で、さらに共通すること、異なることを対比表に書かせる。</li> </ul> <p>&lt;&lt;発表&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最初に国の名前、位置、写真の人物の名前を伝える。7枚の中からおもしろいと思ったものを4枚選び、1枚15秒程度で説明する。その後、異なること、共通することを書き出した中から1つずつ選び、発表する。</li> <li>感じたことを振り返りシートに書く。</li> </ul>	— 開発教育を考える会 『地球の仲間たち』	
	2	<p><b>世界の一般常識！？</b></p> <p>&lt;&lt;世界探検クイズ&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>配布された国のクイズに挑戦する。</li> <li>グループの生徒同士で選んだ答えを確認し合う。</li> <li>解答を配布し解説を読ませる。</li> </ul> <p>&lt;&lt;発表&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1グループずつ前に出て、国について簡単に説明する。その後クイズをクラス全体に向けて1題のみ出題する。</li> <li>感じたことを振り返りシートに書く。</li> </ul>	愛知県国際交流協会 『私たちの地球と未来』	
	3	<p><b>交流を楽しもう！</b></p> <p>&lt;&lt;交流会&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>司会進行は生徒が行う。</li> </ul> <p>&lt;&lt;伝言ゲーム&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各チームに留学生が入ってチーム対抗でスピードを競う。言語能力の差が障害とならぬよう背中に書いた文字を伝えるシンプルなルールとする。</li> </ul> <p>&lt;&lt;10の扉&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>背後に書かれたお題を当てるため、仲間に Yes/No questions をしていくゲーム。留学生と協力し合ってチーム対抗でスピードを競う。</li> </ul>		
成果	<p>フォトランゲージや世界探検クイズを通して、異文化のおもしろさに触れることができた。また、離れた国でも私たちと共通点があることを発見した生徒もいた。交流会は多くの生徒が楽しむことができた。生徒自身が交流会の内容を企画・運営したため、指示が伝わりにくいこともあったが、どう改善すべきか考えるよい機会となった。</p>			
課題	<p>交流会の内容については、より深めていく必要がある。「もっと留学生中心で文化に触れることをすべきだった」という意見の生徒がいた。次年度以降はただ楽しむ、楽しませるという段階から発展し、互いをより深く知れるような内容の交流会を企画させたい。そのために生徒の海外に対する興味を一層引き出していかなければならない。</p>			
備考				